

兵 庫 医 科 大 学 同 窓 会



緑樹会 会報



特集 緑樹会と兵庫医科大学の連携

2022.04.01

No. 80



緑樹会(RYOKUJUKAI)のシンボルマークは、頭文字「R」を「RYOKU(緑)」と「JU(樹)」2つのパーツに分けて、医学の守護神アスクレピオスの杖を表現しています。

今号の表紙



大江与喜子先生
開学50周年式典での
講演の様子

大江(旧姓 森村)与喜子、医療法人財団樹徳会上ヶ原病院理事長、兵庫医科大学第1期卒業生、開学50周年記念講演の演題:「創立の理念と歴史を背負って…」

※兵庫医科大学は1972年4月に開学、今春50周年を迎えました。

イベント開催日:3月26日(土)

イベント名:「兵庫医科大学開学50周年記念式典・記念講演会」

CONTENTS No.80

GREETINGS

- 03 会長あいさつ
緑樹会会長 石蔵 礼一
開学50周年に寄せて
緑樹会副会長 黒田 佳治

FEATURES

- 04 **特集**
緑樹会と兵庫医科大学の
連携

- 08 医学部長就任のご挨拶
09 教授就任のご挨拶
11 兵医教授に就任された先生からメッセージ
12 准教授・講師就任のご挨拶
14 開学50周年に寄せて

- 18 **開学50周年特別企画**
兵庫医科大学 部活動のご紹介

- 23 アスリートを支える
24 留学体験記
25 「NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE」に論文掲載
26 新規開業医紹介
27 医局紹介

- 28 **CLOSE UP**
緑樹会一斉アンケート報告

- 30 学会報告
第116回医師国家試験報告
卒業生記念植樹
31 **開学50周年特別企画**
アーカイブズ室より
あのころ通った、なつかしの味

- 33 緑樹会からのお知らせ
掲示板/事務局より/支部一覧/編集長コラム/編集後記

会

会長あいさつ



新たな50年に向けて

石蔵 礼一 (昭和57年卒業) | 緑樹会会長

春暖の候 益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。兵庫医科大学が創立50周年を迎え、卒業生も4,616名となりました。多くの先生方は、開業され第一線で地域医療の中心となり活躍をされています。そして、これまでに地区から県までの医師会長は14名となっています。研究面では、兵庫医科大学教授31名、それ以外の教育機関での教授17名が卒業生です。とても素晴らしい活躍だと思います。

兵庫医科大学は、新たな50年に向けた“Empower The People”をスローガンに歩きました。兵庫医大生の特徴は、優しく、思いやりや協調性が高く、患者さんから

慕われる素晴らしい気質があり臨床面に適していると思います。しかし一方で、勉強や研究については苦手意識がある様です。今後は、研究面にもう少し重点をおく必要があると思いますが、少し精神的ハードルが高いのかもしれない。難しく考えず疑問や解明されていない事を見つけて知る事ができれば、楽しいと感じられるはずで

先日、脳神経外科 吉村紳一主任教授、内田和孝准教授らが中心となり、他施設共同研究で(Endovascular Therapy for Acute Stroke with a Large Ischemic Region)世界初の研究としてThe NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINEに

受諾されました。研究を論文という形にする事は大変な時間と労力が必要です。研究面でも大学側のサポート体制は重要で、これについては充実してきています。これからの50年は臨床だけでなく“Empower The People”の一つとして研究面でも力を入れていければと思います。兵庫医科大学病院内の先生方は当然ですが、院外で勤務されている緑樹会の先生方も他施設共同研究としてのチャンスがありますので、新たな一歩を踏み出していきました。今後も、緑樹会活動に皆様のご支援、ご指導を賜りながら活動してまいります。宜しくお願い致します。

50TH

開学50周年に寄せて



開学50周年に寄せて

黒田 佳治 (昭和54年卒業) | 緑樹会副会長

昭和54年卒業(2期生)の緑樹会副会長 黒田佳治です。兵庫医科大学に1973年に入学しました。我々の時代の学生番号は入学年度の下2桁から始まり、1期生は72-----、2期生は73-----という学生番号でした。1期生の学生番号の年度から50年の今年、2022年は開学50周年と感慨深い思いです。入学時は兵庫医大の創生期で、故森村理事長、学長を中心に新任の教授たちがそれぞれの科で自らの教室作り教育、研究、診療に歩み出された時代です。学生も1期生、2期生でクラブ活動を始め、西医体の参加も大変でした。私もやったことのない棒高跳びや、やり投げ、水泳など

に駆り出されました。棒高跳びは3mから始まり競技者全員が飛ばず、バーの高さを下げていき飛べた人が優勝という競技で審判員の方が「長いこと審判員しているが、バーの高さを下げていくのは初めてだ。」と嘆いておられました。試合の前日に宿舎で大宴会、試合当日短距離に出た先輩がクローゼットスタートで腰を上げた途端、口を押さえてコースと反対のトイレに走っていかれました。2日酔いでした。水泳のリレーでは第2泳者が途中で溺れ、プールの中を歩いて第3泳者に、泳げないやつを水泳競技に出すなと怒られました。本当にめちゃくちゃなことをしていましたが今となって

は良い思い出です。解剖学実習が始まり医学部に入学した実感がわきました。人体の精密さ、不思議さに時間を忘れ遺体と向き合っていました。ラテン語で人体の名称を覚えるのが学年でトレンドとなり、この頃から学生同士で勉強し合う雰囲気が出ていたように思います。みんなで国家試験合格を目標に頑張っていました。2012年の国家試験全員合格のニュースを聞き、自分たちのことのように嬉しかったです。これからもなくてはならない兵庫医科大学として建学の精神のもと良医の育成、診療、研究にますます発展されることを信じて50周年のお祝いとさせていただきます。

特集

緑樹会と
兵庫医科大学の

連携



緑樹会と兵庫医科大学は相互の発展を目指し、両者の方針の確認や関係性を深めるための懇談会を2019年から開催しています。昨年11月25日には第6回となる懇談会が実施され、開学50周年を迎える兵庫医科大学の新UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)の活用などについて活発な意見交換が行われました。今後も定期的に懇談会を開催することで、さらに連携を強化し、母校の発展に貢献していきます。



特別鼎談

兵庫医科大学の

これから

50周年という節目を迎えた兵庫医科大学。歴史を刻むごとに、大学はもちろん、緑樹会の組織も一般社団法人となるなど、進化を続けています。今後、両者がより連携を深め、ともに発展していくために必要なことや、大学が緑樹会に今後期待することなどを、兵庫医科大学の太城理事長と、緑樹会 保科常任理事、橋本常任理事の3名で語り合いました。

深まる大学と同窓会の相互理解

保科先生(以下保科): 緑樹会としては、ここ10年の間に組織的にも成熟したと感じています。太城理事長から見て、現在の緑樹会に対する印象はいかがですか。

太城先生(以下太城): おっしゃる通り、組織としてのまとまりが出てきたと思います。最初は正直、一部の方のみが活動しているように見えていましたが、最近では法人化もしましたし、緑樹会・大学側双方とも、連携して一緒に物事を進めるというスタンスに変わってきて、お互いの理解も深まってきたと思います。卒業生の主任教授が増え、大学運営の中核に入るようになってきたことも、連携が上手くいっている要因の一つかもしれませんね。

橋本先生(以下橋本): 10年前までは、卒業生で主任教授以上の方が少なかった印象です。**太城:** 基礎で何名かと、臨床では中野先生くらいでしたね。

保科: 主任教授の選考はもちろん業績、学問的に優れているかどうかが判断されますし、卒業生だから母校の教授になるのを優遇する、というのは正しいとは思いません。一方で、兵庫医大は、歴史が同じくらいの新設私立大学の中でも、卒業生の教授就任率が少し低いという意識がありました。その状況を変えるためには、やはり論文が重要。ここ数年は、野口学長や阪上病院長のご指導の元で論文を書いたり、実績を積んできている先生が増えていると思います。

太城: そうですね、今は卒業生の教授も増えてきましたが、やはり論文を多く出される先生が、主任教授以上になっている印象です。**保科:** 太城理事長自らも研究会をセッティングしてくださったりと、サポートしていただいているように感じます。その成果か、卒業生の名前を見る機会が増えたのが嬉しいです。ここ何年間かは主任教授を目指せるような有望な先生や女性の先生がどんどん出てきています。患者さんからの信頼度も高く、この15年で兵庫医大のブランド力が高まってきているのにも感じますので、卒業生の主任教授が今後たくさん誕生すれば嬉しいなと思います。

第6回懇談会 概要

日時 2021年11月25日(木) 16:55~18:05
場所 兵庫医科大学 第1会議室(10号館2階)
出席者 兵庫医科大学
太城理事長、野口学長、阪上病院長、松村常勤理事、池内副学長、佐々木事務局長、甲斐事務局次長、中村学務部長
緑樹会
石蔵会長、大江副会長、黒田副会長、飯島副会長、保科常任理事、清水理事
※欠席: 武田副会長

議題

- 1 新UIの有効活用について**
開学50周年を機に制作された新しいUI・ロゴに込めた思いを全面に出し、関係者の一体感を強められるような広報の提案や意見交換
- 2 開学50周年記念式典、記念講演の式次第について**
3月26日に実施された記念式典について、式のプロプログラムや内容などについての意見交換
- 3 卒業記念植樹について**
卒業記念植樹への緑樹会の今後の関わり方等についての意見交換

過去の開催履歴

- 第1回目 2019年7月
- 第2回目 2019年11月
- 第3回目 2020年5月
- 第4回目 2020年11月
- 第5回目 2021年3月
- 第6回目 2021年11月

過去の懇談会の議題や実績(抜粋)

◆ **クラブ・同好会のOB組織について**
今後、クラブ活動や同好会の卒業後の関係性を強化するため、大学から名簿の必要性について提案があり、緑樹会が各OBへの中継役となって名簿の整備に着手しました。

◆ **梅田クリニックの開設に関して**
2022年秋に「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」に開業予定の「兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック」について、プロジェクトの進捗報告を受け、情報交換等を行いました。

緑樹会
常任理事
橋本 昌樹
MASAKI HASHIMOTO

緑樹会
常任理事
保科 幸次
KOJI HOSHINA

学校法人
兵庫医科大学
理事長
太城 力良
CHIKARA TASHIRO





というキャッチフレーズにしたのです。

橋本:日本で同じような内容を掲げているところはあるのでしょうか。

太城:日本の大学病院ではスマートホスピタルや、IT化という考え方がトレンドですので、あ

まり聞いたことはありませんね。

保科:すごく暖かさを感じます。太城理事長の発案ですか？

太城:いえ、職員への公募で挙がってきたフレーズの一つです。

保科:オリジナリティがあっていいですね。兵庫医大のカラーにも合致していると思います。ささやま医療センターでもう一つ驚いたのは、同じ医療圏の岡本病院という眼科手術を積極的に行っている病院がありますが、岡本病院と戦うのではなく、あえてささやま医療センターの眼科を縮小(現在は閉科)するなど、柔軟に対応されたことでした。

太城:篠山という限られた人口のエリアで、急性期病院は2つもありませんから。今、岡本病院とささやま医療センターは協定を結んでいて、うまく分担しています。

保科:言うのは簡単ですが、なかなかできないことですよ。

太城:篠山以外でも、「阪神メディカルアライアンス」というものを作っています。備品の共同購入など、まずは事務的なところで連携を深めたあと、得意分野に応じて相互に患者を紹介するというをしています。

橋本:兵庫医大らしくていいですね。みんなと一緒に前に進んでいくところが、

兵庫医科大学が持つ

カラーと今後

保科:以前、副学長の鈴木敬一郎先生が後援会で兵庫医大の学生のカラーを「自由でベラル」と表現されていました。明るくて競争を重視しない空気は、地域医療を主領域とする面では良いところもある一方で、貪欲さが物足りないと感じることもあります。太城理事長が考える兵庫医大のカラーというのはいかがですか。

太城:おっしゃる通り、ハングリー精神というか、他人を押しつけてでも前に出ようという学生は少なく感じます。とは言え、やはり優しく思いやりのある学生、卒業生がとて多いと思います。私が兵庫医大に来てすぐの頃、駐車場に車を停めた直後に雨が降り始めたことがありましたが、学生の一人が傘を差し出して、一緒に入っていきましょうと言ってくれて、感激しましたね。それに、兵庫医大では麻酔をするときでも、消毒するやいなや一言も断らずに針を刺す、というようなことはありません。皆さんちゃんと「今からチクっとしますよ」なり、思いやりの一声があります。

橋本:「他者を思いやる気持ち」こそ、兵庫医大のカラーだと思います。仲間を思いやる、すなわち手を繋いで一緒に歩くということは得意だと思います。国公立大の先生達に及ばない点もありますが、他者を思いやり仲間と共に進んでいくことで伸び代は大きいと感じています。周りを巻き込んで進んで行く力は他の大学にはない特性に思えます。

保科:「EMPOWER THE PEOPLE」や「human-centered hospital」といった言葉に通じるところがありますね。



「人」を中心とした

教育を目指して

保科:太城理事長は2014年からはささやま医療センターで病院長を務められていました。「篠山モデル」という言葉がありますが、これは何を表現した言葉ですか。

太城:教育システムとして、地域に根ざした病院ということですね。大学病院の教育における欠点は、初診の患者さんで病名が分からないという方がほとんど来ないこと。既に診断がついている方ばかりですので、初期研修を大学でどう進めるかが課題になっていました。

保科:答えが分かっているところから始めることが多いですね。

太城:common diseaseでいえば、自分で調べてこの検査とこの検査をして…という思考過程が大切ですが、大学病院でそれを教えるのは意外と難しい。ささやま医療センターは、ほとんどがそういう診断のついていない患者さんですから、初期教育の拠点として活用しています。それと、これまでは大学で教えるのは命を救う、病氣治すということだけでしたが、今の高齢化社会では、患者さんが笑顔で命を全うするように、寄り添い、看取っていくという教育も必要だと感じています。ささやま医療センターでは回復期や老人保健施設もありますから、そうした「人」の側面からの教育もできます。実は、「人」を重視した教育を強化したいという想いがあり、現在計画中の新病院棟も「human-centered hospital」

太城:そう、すべて繋がっていると思っています。

保科:さらにリクエストするなら、モアパワーというか、力強さも求めたいところですね。

太城:他者をEMPOWERしていかなければいけませんから。

進む女性活躍と、

様々なサポートの形

保科:働き方や女性活躍というところでも、学内の意識が変わってきているように感じます。例えば外科では、新たに女性の主任教授が誕生しました。

太城:消化器外科で女性の主任教授というのは、全国でも初めてではないでしょうか。

橋本:ポリクリで学生と話していると、外科に興味があるとってくれる女性の方は多いです。女性の外科医がバリバリ手術をしている姿というのは、今後の発展のためにも良いと思います。

保科:女性の管理職の割合は今後増えていく予定ですか。

太城:なかなか達成できていませんが、目標は設定しています。

橋本:今は女性管理職が13パーセントですね。

太城:当面の数値目標は25%です。今は野口学長とダイバーシティ推進室の飯島先生が中心となっているいろいろな施策を進めてられています。

保科:そうした活躍したい女性を支えていきつつ、そう思えなかった方のことも尊重することも大切だと感じています。先日、東大の上野千鶴子先生が、「フェミニズムは女性が男性のように振る舞いたいとか、弱者が強者になりたいとする思想ではなく、弱者が弱者のまま尊重されることを求める思想」というコメントをされていました。うちは娘が3人いて、一番上が兵医出身で循

環器内科を専攻し、下2人は文系なのですが、幸せな結婚と家族の生活をイメージしつつ、生涯の仕事を考えたり、極端には仕事はしたくないと考える者もいます。上野先生のコメントを聞いて、改めて多様性の意義に気付かされました。

太城:ダイバーシティに関しては、病院長時代から取り組みはしていました。例えば産休で休んだ方や時短の方がいたときに追加人員を雇用できるといった制度は、働き方改革が叫ばれる前から作り始めていましたし、法人として、今後さらに取り組みを進められたらと思います。

次の50年へ向けた

兵医緑樹構想

(緑地化を推進していく企画)

保科:11期生から始まり毎年積み重ねて今年で45期生に至る、平成記念会館を囲んだ卒業記念植樹群、これらの木々が伸びてイキイキと生い茂り、続いては新病院完成後の、現1号館跡地をなるべくなら全面緑地化とし、みどりの街、兵医緑樹の街といったムードが理想です。兵庫医大緑樹構想!はいかがでしょうか?

太城:新病院建設ではそういう計画ですよ。2030年頃には1号館と8号館を壊すことができフラットなスペースとなります、その広大な土地に木を植えようと思っています。また新型コロナウイルスによるパンデミックが落ち着けばようやく阪神バスも大学中央の南北道を通る予定です。

緑樹会に期待すること

保科:最後に、これからの兵庫医大の目標と、それを実現するにあたって緑樹会の会員の皆様に期待することをお願いします。

太城:大学の目標としては、やはり「良き医療



人」を養成するというに尽きます。病気だけではなく、人を見て、社会を見て、診療や看護、薬学、リハビリなどを行う。独りよがりにならずに、他職種と連携して、いつも仲良く職務にあたることのできる医療人を育てるのが最終目標です。緑樹会にはそうした教育を、応援団としてあたたかく見守ってほしいと思います。また、特に若い世代に兵庫医大への帰属意識を高めていただきたいですし、なんとかして子弟を優先的にとることができないか、というところを検討しています。(編集部注・対談後、正式に3名の同窓会卒の2023年度入試からの導入が決定…詳細は28頁)

自分達の師弟はまず兵庫医大にと考える母校愛を熟成させてほしい。そういう緑樹会であって欲しいと思います。母校愛という意味では、優秀な卒業生が他で修行するのはとても良いことですが、最終的には兵庫医大に帰ってきてくれると嬉しいですね。

保科:本日はありがとうございました。

医系総合大学の誕生と医学部の発展

辻村 亨 (昭和58年卒業) | 兵庫医科大学副学長、兵庫医科大学医学部長



この度、2022年(令和4年)4月1日付けで、兵庫医科大学 副学長(西宮キャンパス統括)・医学部長を拝命いたしました。

兵庫医科大学は、1972年に単科医科大学として西宮の地に誕生し、1978年に大学院医学研究科を開設して、学生教育、医学研究の発展に努めてきました。開学50周年の節目となる2022年、兵庫医科大学は兵庫医療大学(2007年、神戸キャンパスに開学)と統合して、医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部および大学院医学研究科、薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科の4学部4研究科を擁する新たな医系総合大学としてスタートをきります。大学名の日本語表記は兵庫医科大学のまま変わりませんが、英語表記はHyogo College of MedicineからHyogo Medical Universityに変わります。これまでの兵庫医科大学は単科医科大学であったこともあり、学長が大学と医学部/医学研究科の両方の運営にあたられてきましたが、この度の統合により学長としての職務が拡大したことや国際基準を踏まえた医学教育の改革・実践など医学部に特化した業務が増加してきたことを受けて、医学部長(医学研究科長を兼務)が新たに設けられました。学長は医系総合大学の特色・強み・役割を明確にし、次の50年に向けて4学部4研究科の学生および全教職員とともに大学の進むべき方向性を示すなど戦略的な大学運営を担うことになり、医学部長は医学部教授会および医学研究科教授会

を主宰して、知識と技能を備えた優れた医師・医学者の養成にあたり、西宮キャンパスを統括することになります。このような副学長(西宮キャンパス統括)・医学部長を拝命したことは、身に余る光栄であり、その重責を轟々と感じています。特に、今回は初代医学部長であり、その使命の1つは、医系総合大学の医学部・医学研究科として始動するための基盤を確立することであるとと考えています。

兵庫医科大学と兵庫医療大学の統合は、医学部の教育面で大きな変革をもたらすと考えられます。これまでも兵庫医科大学は兵庫医療大学と連携してチーム医療教育に取り組んできましたが、統合を機にして、より一層、学部の垣根を超えた多職種連携体制を強化して質の高い医師の育成を推進したいと思います。現在、第1学年次にチーム医療入門、第3学年次に本学独自のチーム医療演習(患者の痛みのわかる医療人養成)が教育カリキュラムに取り入れられています。これらの延長線上に、4学部の学生と一緒に臨床実習する実践的プログラム(チーム医療実習)を組み入れることができれば、全人的医療に求められる医療職種間の相互理解やチーム医療による問題解決能力が学生のうちから身につくと期待されます。このような取り組みの実現化には4学部のカリキュラム調整や実習スペースの確保などの課題を解決する必要がありますが、医学部をもつ医系総合大学にしかできない取り組みであり、実現すれば本学の大きな特色・強みになると考

えられます。研究面においても、他の3学部と協力して全学部横断的な研究プロジェクトを企画して研究力の向上を図り、医学部は学際的チームの協働・連携にリーダーの立場で寄与したいと思います。

2018年に先進的な教育環境を提供する新たな学舎(教育研究棟)が開設され、2026年には未来の医療に対応し最新鋭の設備を備えた新病院棟の開院が予定されています。兵庫医科大学は大きく進化し、躍動しています。このような兵庫医科大学において、初代の副学長(西宮キャンパス統括)・医学部長の責務を果たすよう最善を尽くすとともに、医学部/医学研究科が新しい時代に向けて発展できるよう全力で取り組みたいと思います。今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

高知大学医学部腫瘍内科学講座教授就任のご挨拶

佐竹 悠良 (平成16年卒業) | 高知大学医学部 腫瘍内科学講座 教授



この度、令和3年11月1日付で高知大学医学部腫瘍内科学講座教授を拝命しました。佐竹悠良です。

私は平成16年(2004年)に本学を卒業後、スーパーローテーション制度導入の一期生であったこともあり、大学病院ではなく従前よりローテーションによる卒後研修制度を取り入れていた八尾徳洲会総合病院での卒後初期研修を選択しました。その後の神戸市立医療センター中央市民病院における後期研修時代にがん診療に興味をもち、ラグビー部二期先輩に当たる堀松高博氏(現京都大学)に相談し、国立がん研究センター東病院に卒後6年目より消化管内科レジデントとして赴任しました。第一子の出産を控えていたにもかかわらず、薄給かつ遠方であるがんセンター東病院での研修を許してくれた妻(兵庫医大平成14年卒)には今でも頭が上がりにません。

がんセンター東病院における3年間のレジデント研修の後、古巣である神戸市立医療センター中央市民病院において、辻晃仁先生(現香川大学臨床腫瘍学講座教授)が腫瘍内科を立ち上げるにあたりお声がけをいただき、2012年4月に神戸に戻ることとなりました。がん薬物療法に関する様々な前向き介入臨床試験を立ち上げ、国際共同治験を実施するにつれ、薬物療法の面白みに惹かれていき、腫瘍内科医として歩みはじめ、2016年京都大学腫瘍薬物治療学講座武藤学教授の元で学位を取得しました。

2018年2月からは関西医科大学附属病院がんセンター学長特命准教授と

して赴任し、それまで消化管がんに対する治験実績が無かった同院に新規国際共同薬物療法治験・臨床試験を導入し、がんセンターの立ち上げ、および折しも臨床導入となりました新規薬剤である免疫checkpoint阻害薬実施に関する院内体制整備、並びにがんゲノム医療推進に従事しておりましたが、今回ご縁があり高知大学医学部腫瘍内科学講座初代教授に就任することとなりました。

現在、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)での多施設共同前向き試験である「標準化学療法に不応・不耐な切除不能進行再発大腸癌患者を対象としたTrifluridine/Tipiracil単剤療法とBi-weekly Trifluridine/Tipiracil+Bevacizumab併用療法のランダム化第III相試験(JCOG2014: ROBiTS)」で、研究事務局として本邦発の新規エビデンス創出を図っております。また、欧米を中心に実施しているデータシェアリング事業であるARCAD(Aide et Recherche en Cancerlogie Digestive)プロジェクトへ本邦が参入するにあたり、ARCADアジア大腸癌ワーキンググループメンバーの一員として、医薬品の研究開発活動の効率化など、より良い医療をより早く届けられるよう尽力する次第です。

また、今や日本人の二人に一人はがんに罹ってしまう時代と言われておりますが、高齢化に伴い、今後ますます腫瘍内科医の需要は高まると言われています。一方、本邦の腫瘍内科医は欧米に比べてまだまだ不足しているのが実情であり、今後は医学生をはじめ若

手腫瘍内科医の教育・育成を通じ本邦のがん診療レベルの向上を目指すとともに、日本がん治療認定医機構(JBCT)教育委員会 委員として大腸がん診療に関する知識の均てん化に貢献できればと思います。

高知は遠い印象もおありかと存じますが、神戸・伊丹から飛行機で40分、車で3時間の距離です。是非皆様、遊びにお越しいただけましたら幸いです。

引き続き一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、緑樹会会員の先生方、関係皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

臨床教授就任のご挨拶

内野 基 (平成7年卒業) | 兵庫医科大学 消化器外科学講座・炎症性腸疾患外科 教授



この度、2021年8月1日に兵庫医科大学・消化器外科学講座・炎症性腸疾患外科の臨床教授を拝命いたしました。私は平成7年(1995年)兵庫医科大学の卒業で、当時、宇都宮譲二教授が率いておられた第二外科に入学いたしました。潰瘍性大腸炎や家族性大腸腺腫症に対する標準手術は大腸全摘、J型回腸囊肛門吻合術ですが、本術式のパイオニアである宇都宮先生の下で修練させていただいたことが今日につながっています。またその修練において、池内浩基先生、楠正人先生、山村武平先生はじめ数多くの先生方に引っ張っていただいたことにも深く感謝いたします。さらに分野は異なるものの感染制御部の竹末芳生教授からも研究や留学に関して多大な恩恵を受けたことにも感謝の念が堪えません。

そんな教育の中で、大学院は兵庫医科大学医学研究科外科学に進学しました。研修医のころはほとんど家に帰らずに、大学の当直が救急病院の当直をしていました(いや、当直の無い時は必ずと言っていいほど飲みに出かけていました)。あの時代、大学病院でも夜間に輸血をする時には自分でクロスマッチをして放射線照射をする必要があり、とても不安、恐怖を感じていたことがありました。救急当直でもいろいろなことに1人で対応しなければならず、恐怖心から仮眠できずによく診療の手引きや救急マニュアルなどを読みあさっていました。この時の様々な救急医療の経験は今から思えば非常によい経験でした。しか

し、4-5年ほど同じような仕事を継続していると、夜間に遠くで聞こえる救急車の音が気になってしょうがなくなり、なんだかおかしくなりそうな気がしていったん休もうと思い、大学院に進学することにしました。大学院在学中は神戸大学バイオシグナルセンターに出向させていただき、消化器外科とどう関係するのか当初は全く分からなかったのですが分子薬理学なところで神経伝達などに関わらせていただきました。ところが怠惰な性格が災いし、暇ができた分、遊んでばかりで研究はまじめに取り組んでいませんでした(恩師の齋藤先生ごめんなさい)。しかし、何を明らかにしたいか、どのような方法で検討するか、そして結果をどのように考察していくか、問題点は何かといった、要するに学会発表や論文作成の基礎をしっかりと学んだ非常に良い機会でした。きっとあの経験がなければ今の私ではなかったはず

です。今回、ご挨拶させていただくにあたり改めて考えたのですが、もちろん入学当初から現在の役職を目指していたわけではありません。何を、どこを目標にしていたのか決めることなくただ目の前のことに取り組んできただけでした。しかし諸先輩方の働き方を改めて考えると明確な目標を持たれていたように思います。ここまで育てていただいた恩を肝に銘じ、今回の就任を、今後の目標について改めて考える良い機会とさせていただき、自身の成長もまだまだ必要な状態ですが、これまでの恩恵を後進の

育成という形で選らせていただきたいと思います。あらゆる疾患に対しチーム医療の重要性が認識されており、消化器外科、炎症性腸疾患も例外ではありません。皆様の御支援無くしての進歩はありません。今後も引き続き御指導、御支援の程よろしく願いいたします。

卒業生に選ばれる温かい教室を目指して

廣野 誠子 | 兵庫医科大学 消化器外科学講座肝胆膵外科 主任教授



2022年1月から兵庫医科大学消化器外科学講座肝胆膵外科の主任教授を拝命しました廣野誠子と申します。この度は、緑樹会の先生方にご挨拶する機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は、2000年に和歌山県立医科大学を卒業し、同学消化器外科学教室に入学し、外科学の修練を行ってきました。大学院では、2005年から2年間半、東京有明の癌研究所で膵癌の遺伝子研究を行い、学位を取得しました。2008年から肝胆膵外科を専門とし、2012年に日本肝胆膵外科学会高度技能専門医を取得しました。臨床研究は、膵頭十二指腸切除術における膵液瘻予防を目指した第III相前向き比較試験(RCT)や膵癌の長期生存を目指した新術式の有用性を証明する多施設共同RCTを研究責任者として遂行してきました。また、膵癌の前癌病

変である膵嚢胞性疾患の手術適応や治療法の開発を研究してきました。

私は兵庫県小野市で生まれ、私が大学生の頃、父親が病気で兵庫医科大学病院に入退院を繰り返させて頂き、医師の先生方やメディカルスタッフの方々にとても温かく接して頂きましたので、私にとって兵庫医科大学は憧れの大学でした。この度、兵庫医科大学の一員として迎えて頂いたことは、私にとってこのうえなく光栄で幸せです。一方で、肝胆膵外科教室は、岡本英三 教授、藤元治朗 教授、波多野悦朗 教授の築かれた歴史と伝統ある教室ですので、その伝統を引き継がせていただく責任を強く感じております。

診療におきましては、肝臓手術はこれまで以上に手術件数を増加させ、教室の第1の看板としてかかげてまいります。そして、膵癌や膵嚢胞性疾患に対して手

術を含めた集学的治療をしっかりと行い、膵臓外科を教室の第2の看板となるよう精進いたします。また、胆嚢炎や鼠径・腹壁瘻痕ヘルニアなどの良性疾患の手術も増やせるよう、教室員一同で頑張ります。研究におきましては、肝切除や膵切除後の合併症ゼロを目指した臨床研究を遂行することで、より安全な高難度手術を提供できるようにいたします。

そして、兵庫医科大学の学生さんが、こんな教室で診療や研究をしたいなど思っていただけの温かい教室作りに励み、学生さんとしっかりとコミュニケーションをとっていくことで、多くの卒業生の先生方が入学していただけるよう努力いたします。最後になりますが、緑樹会の先生方には、これからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

1 専門分野

2 診療実績

3 主な業績

肝胆膵外科、低侵襲手術(腹腔鏡下手術)

肝胆膵手術 年間延べ120例

- ◆ Hirono S, Yamaue H, Hoshikawa Y, Ina S, Tani M, Kawai M, Ushijima M, Matsuura M, Saiki Y, Saiura A, Yamamoto J, Miki Y, Noda T. Molecular markers associated with lymph node metastasis in pancreatic ductal adenocarcinoma by genome-wide expression profiling. *Cancer Sci* 101(1):259-266,2010.
- ◆ Hirono S, Tani M, Kawai M, Okada K, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H. The carcinoembryonic antigen level in pancreatic juice and mural nodule size are predictors of malignancy for branch duct type intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. *Ann Surg* 255(3):517-522,2012.
- ◆ Hirono S, Kawai M, Okada K, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Ueno M, Yanagisawa A, Yamaue H. Factors associated with invasive intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas. *JAMA Surg* 152(3): e165054, 2017. DOI: 10.1001/jamasurg.2016.5054. PMID:28122068.
- ◆ Hirono S, Kawai M, Okada K, Miyazawa M, Kitahata Y, Hayami S, Ueno M, Yamaue H. Modified Blumgart mattress suture versus conventional interrupted suture in pancreaticojejunostomy during pancreaticoduodenectomy: randomized controlled trial. *Ann Surg* 269(2):243-251,2019.
- ◆ Hirono S, Shimizu Y, Ohtsuka T, Hara K, Kannno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Shimokawa T, Hijioke S, Yanagisawa A, Nakamura M, Okazaki K, Yamaue H. Recurrence patterns after surgical resection of intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) of the pancreas; a multicenter, retrospective study of 1074 IPMN patients by the Japan Pancreas Society. *J Gastroenterol* 55(1):86-99,2020.

4 受賞歴

2007年 膵臓病研究財団研究奨励賞、2009年 国際膵臓研究フォーラムBest Poster Award、2009年 日本消化器外科学会優秀演題賞、2010年 藤田記念財団研究奨励賞、2010年 和歌山医学会青洲賞、2010年 JDDW ポスター優秀演題賞、2011年 日本分子腫瘍マーカー研究会奨励賞、2011年 大阪癌研究会一般学術研究助成金、2012年 武田科学振興財団医学系研究奨励賞、2013年 IAP & KPBA 2013 Young Investigator Award、2014年 DDW 2014 Poster of Distinction、2014年 APA Definition Award of Poster、2014年 日本消化器外科学会 JSGS Young Investigator of the Year、2014年 日本癌学会奨励賞、2015年 膵臓病研究財団研究奨励賞、2015年 JDDWポスター優秀演題賞、2017年 The 10th International Pancreatic Cancer Conference、2017 Merit Award、2017年 上原記念生命科学財団研究助成、2017年 小林がん学術振興会研究助成、2019年 公益信託外科学研究助成基金、2019年 公益信託第106回日本外科学会定期学術集会記念・外科手術研究助成基金、2019年 第31回SGHGがん研究助成、2019年 がん集学的治療研究財団一般研究助成、2020年 Investigator Award of Hsu-Yuan Education Foundation、2020年 日本癌治療学会最優秀演題賞、2020年 日本消化器病学会女性研究者賞、2020年 手術手技研究会奨励研究賞、2020年 安田記念医学財団癌研究助成、2020年 AGSurg Reviewer Award、2020年 第34回日本消化器病学会奨励賞、2021年 武田科学振興財団ビジョナリーリサーチ助成

准教授就任のご挨拶

陰山 博人 (平成10年卒業) | 兵庫医科大学 脳神経外科学 准教授



2021年10月より兵庫医科大学脳神経外科学講座の准教授を拝命いたしました陰山博人です。私は平成10年に本学を卒業し、脳神経外科に入局、兵庫医科大学とその関連施設で臨床を経験いたしました。研修医を終了した半年後より三重県に国内留学をする機会をいただきました。当初、脳外が脊椎って??と戸惑いつつ叩いた門でしたが、中枢神経から末梢神経、更に筋肉関節といった運動器までを対象とする脊椎・脊髄疾患に魅せられこれを

専門とし現在に至っております。hybrid手術室を脊椎・脊髄外科手術に応用し、正確、安全な手術を行う方法、また、早期より径8mmの脊椎経皮的内視鏡を用いた低侵襲手術も行ってきました。今後は前向き登録研究により、「治療方針決定の指針になるような臨床研究」も行っていきたく思います。これからも本学の発展と脳神経外科による脊椎脊髄外科の発展に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

准教授就任のご挨拶

内田 和孝 (平成12年卒業) | 兵庫医科大学 脳卒中センター 准教授



2021年12月1日より脳卒中センターの准教授を拝命いたしました内田和孝です。私は2000年に兵庫医科大学を卒業し、脳神経外科学に入局しました。研修医の2年を本学で研修し、シミズ病院、合志病院、友愛会病院で研鑽した後、2009年より当院に再度赴任し、有田憲生教授のご指導の下、脳卒中の外科、血管内治療を多数経験させて頂きました。2013年より吉村紳一教授が着任し、最新デバイスを用いた脳卒中の外科、血管内治療のご指導を賜りました。また同時にア

カデミアとしての指導を受け、2015年からは、臨床疫学教室に大学院生として入学し、森本剛教授のご指導の下、2019年に脳卒中病型分類スコアの開発で学位取得いたしました。最近では、脳卒中領域の多施設共同研究やランダム化試験に携わっております。本学でご指導いただいた多くのことを少しでも母校に寄与できますよう、微力ではありますが、責任と自覚をもって努力して参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

講師就任のご挨拶

奥谷 博愛 (平成21年卒業) | 兵庫医科大学 麻酔科・疼痛制御科学 講師



令和3年11月1日付けで兵庫医科大学麻酔科・疼痛制御科学講座 講師の辞令を拝命いたしました。平成21年に本学を卒業し、大阪市立総合医療センターでの初期臨床研修後、同センターで麻酔科レジデントとして麻酔科臨床の基礎を学びました。平成26年4月より当講座に入局すると同時に解剖学(神経科学部門)講座大学院へ進学し、学位を取得しました。平成28年には当院でのTAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)の立ち上げに関わらせて頂

き、令和元年9月からはデンマークのオールボー大学へ2年間留学させて頂きました。帰国後は麻酔科での臨床業務に加え、解剖学と共同で脊髄刺激療法に関する研究を立ち上げ、ペインクリニック部での診療も行っております。今後は心臓血管外科麻酔と疼痛管理のスペシャリストを目指すと共に、臨床・研究・教育にバランス良く尽力し、本学のさらなる発展と後進の育成に努めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

講師就任のご挨拶

橋本 和磨 (平成21年卒業) | 兵庫医科大学 麻酔科・疼痛制御科学 講師



令和3年12月より兵庫医科大学麻酔科学・疼痛制御科学講座の講師を拝命いたしました。私は平成21年に本学を卒業し大阪府済生会千里病院での初期研修を経て、当教室に入局いたしました。その後、当院および宝塚市立病院にて研鑽を積んでまいりました。現在は手術室における麻酔業務だけでなくペインクリニック部での業務に従事しております。痛みは様々な疾患において生じることがあり、痛みがある事で患者さんの

QOLを著しく低下させてしまいます。我々が治療を行うことで痛みが改善され、少しでも患者さんのQOLが改善する事を目標に日々診療に行っております。気がつけば大学に入学してから約20年が経ち人生の半分以上を兵庫医大と共に歩んでおります。これも運命なのだと考え、これからも母校の更なる発展に尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

講師就任のご挨拶

宇和 典子 (平成14年卒業) | 兵庫医科大学 精神科神経科学 講師



令和3年12月1日より兵庫医科大学精神科神経科学講座の講師を拝命致しました。私は平成14年に本学を卒業し、2年間の研修を経てすぐに大学院へ進学。「認知症」の分野で学位を取得した後も老年期の精神疾患を中心に診療に携わり、現在は兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター副センター長も兼務し、認知症の鑑別診断や講演活動を行っています。プライベートでは小学5年生の双子の母親をしており、育児と仕事の

両立で日々追われる生活を送っております。本学が掲げるダイバーシティの行動目標である女性医師の復職やキャリアアップに関しても、今後は自身の経験を活かして後輩医師の活躍を後押しするとともに、私自身も認知症分野で地域とのかけ橋となれるように日々精進していく所存です。
末筆ながら、今後も緑樹会のさらなる発展と本学卒業生の一層のご活躍を祈念しております。

講師就任のご挨拶

西村 晃一 (平成21年卒業) | 兵庫医科大学 臨床検査医学 講師



令和3年12月より兵庫医科大学・臨床検査医学講座の講師を拝命致しました。私は平成21年に本学を卒業し、本学での初期研修の後、循環器内科・冠疾患科に入局致しました。その後、循環器・心不全を中心に診療を行い、平成25年より本学大学院に入学、心不全における貧血の臨床研究を行った後、圧負荷心不全の病態解明を研究テーマとして基礎研究を開始致しました。基礎研究では新規マウス心不全モデルの確立および、このモデルにおける

左室リモデリング・リバーシブルモデリングに関わる遺伝子プロファイルの解析を行い、学位を取得しました。平成30年より米国へ留学し、引き続き心不全の病態解明の基礎研究を行う機会を頂きました。帰国後は心不全診療に従事するとともに、新規心不全治療薬の心不全改善メカニズムの解明を行っております。今回、臨床検査医学の観点から臨床に触れる機会を頂き大変光栄に思うとともに、当院のさらなる発展に尽力してまいりたいと思います。

長年にわたり我々をご指導いただいた先生に
開学50周年を記念してお言葉をいただきました。

兵庫医科大学創設前後の「思い出」

松永 一郎 | 兵庫医科大学名誉教授(元・行動学教授)



昭和44年(1969年)初夏の朝、「5万冊ほど用意してくれ」と森村院長が出勤時に私の部屋へ入ってきた。当時、医局の図書係をしていたので、読書家の先生に何かお考えがあるのだろうと質問せずに了承した。東京から阪急梅田店に出店ばかりの「紀伊国屋書店」に相談してみようと連絡すると事情を理解し東京本社の幹部が翌朝3人連れで来院した。院長との話が終わり、私の部屋に入ってきて「院長先生が医科大学をつくれるそうで、その為に必要な本の依頼を受けました。」今後、松永君と相談して進めてくれと言われたのが大学創設の第一歩となった。その翌日には本社よりベテランが数名来院し、神田の書店街で収集した書籍を屋上のプレハブ集会所に積み上げた。今思えば5万冊の重量はどれくらいあったのだろう。よく底が抜けなかったとゾツとする。多くの方が創設を知って寄贈したいと連絡をくださった。阪神間、京都、姫路とトラックで受け取りに回り、また広島のアメリカ軍病院(ABCC)まで行ったこともあった。当時は新幹線もなく夜行列車で朝受領に行き、米軍将兵の先生方と友好の証の写真を撮ったり礼を言ったりもした。

また、夏の終わり猛暑の中、教員の就任承諾書類の署名を頂きに諸先生方のご自宅にネクタイを締めて背広で伺うと、セールスマンと間違えられて中々応じてもらえないこともあった。

院長は連日文部省行きが多く、夜私

が自宅に帰った後に「明日の昼までに東京に書類を持ってきて欲しい」という電話もしばしばあった。翌朝、院長室にあるこれとは思われる書類を探し、それらしきものと一緒に風呂敷に包んでタクシーで伊丹まで走った。当時は今程便数も多くなく、時間、飛行機まかせで羽田まで到着し、文部省に走った。両手いっぱいを持った風呂敷の中から、「これだ!」と紙一枚をとって喜ばれたことがつい最近の様に思い出される。

晩秋には文部省の許可可否調査の専門員が数名で来院し、院長室で質問、実地調査などが行われた。私は院長室前で待機し、委員から「〇〇の本を持ってきてください。」と私には聞いたこともない専門雑誌の名前を言われる。待っていた紀伊国屋の職員に尋ねると、「あります。あります。」と言って走って持ってきてくれた。それをチラッと見て、「はい、結構です。」図書館では本棚の一番上の段の本を見て、「あれを持ってきてください。」梯子をかけて取り、渡すと裏表紙の印を確認し、「結構」とパス。後ほど尋ねると、以前どこかの調査で上の方は見ないだろうと空箱とか借り本があった事があったそうだ。

やっと学校組織の型がつかかった時に、学校の敷地内に私物の建物存在は不可、直ちに撤去せよと指示。先生をはじめ多くの人々が一生懸命育ててきた武庫川病院、患者、建物、家族を無にせよと。先生をはじめ全ての人々が

泣いた。先生、医師、諸職員が数日かけて入院患者の転院を完了し、建物は一瞬にして破壊された。

この様な様々な出来事を乗り越えて、今日の輝かしい生き生きとした本日はある事を時々思い出すことも必要だろう。50周年、おめでとうございます。どうぞ皆様のさらなる発展を祈念しております。

開学50周年にあたり

関 真 | 兵庫医科大学名誉教授(元・解剖学 細胞生物部門 主任教授)



兵庫医科大学は開学以来早くも50年に亘る歴史を重ねて来たことに、改めて感無量の思いが致します。想い返せば、私は開学3年目に兵庫医科大学に助手として着任(1974年)して以来、定年退職(2015年)をするまで42年間に及ぶ時間を兵庫医大と共に過ごして参りました。大学では着任早々に当時3年生であった1期生と一緒に解剖実習で勉強させて頂いたことなど多くの学生達との教室や解剖実習室での想い出を筆頭に、多くの研究室の教員との教育研究を通じた交わりや、開学間もない大学で教養・基礎・臨床のまだ若かった教授達が如何にして大学を進展させるかと喧々諤々の議論を毎夜の如く交わす有様を見てきました。若い教員達も様々な集会で研究や大学改革・教育改革をどうしたら成功させられるかと口角泡を飛ばす議論、そして課外時間では教授や学生や時には事務員も交わっての懇談会、そして学生の部活動の打ち上げパーティ、などなど数え切れない程の想い出があります。それらの幾多の想い出の中でも、私が歳を重ねた所為でしょうか、着任早々の開学間もない頃の記憶は今でも鮮明に思い出されます。

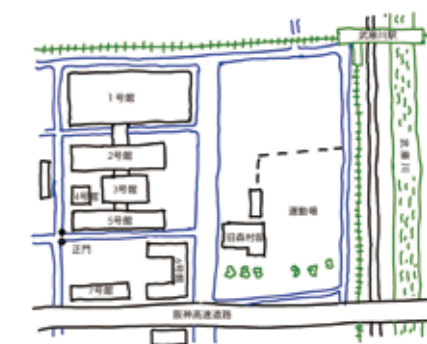
当時はまだ今は無い7号館までの施設しか無い頃でしたが、現在の9号館の土地に本学の開学の祖である森村先生のお宅であった旧森村邸とその裏には小ぶりの運動広場がありました。旧森村邸は完全に大学に開放され

ていましたので、毎日のように学生や教師や事務員などが自由に使っていましたし、時には父兄会との懇親会などにも使われて非常に重宝されていました。運動広場ではまだ学生が小人数でしたので運動会や職員達は研究室毎にチームを作ってソフトボール大会やバレーボール大会などを楽しんでいました。また当時の学生達は悠々とした気質がありましたので、よく運動部にも参加して部活動も大いに満喫しておりましたが、特筆すべきは、六甲山縦走マラソンでしょう。多くの参加者がおり、朝早くから薄暗くなる頃までに須磨から宝塚まで山頂の道を駆け抜ける競争で、今では信じられない程の驚くべき遅さでした。

新しく開学した大学では当然のことかも知れませんが、その当時私が最も感心していたことは、教員を初めとして、学生達の多くも、さらには事務員に至るまでの沢山の人が新しい大学をいかにして進展させるか、良い大学とは何か、良い教育を目指すにはどうすれば良いか、等々に常に思いを馳せている様子に接することが出来たことでした。古い体質の大学から来たばかりの助手にとってはとても新鮮な雰囲気、兵庫医大に教員として着任して良かったと幾度も満足に感じた記憶があります。しかし新設大学ではやむを得ないことですが、着任して数年間はまともな研究環境も整っていないため実験研究には苦勞をしましたがそれらの苦

勞を凌駕する喜びがありました。1995年1月17日5時46分、突然ベッドの下から突き上げるような衝撃に続き振り落とされるかと思うほどの激しい横揺れに始まる阪神淡路大震災に見舞われました。大学は外見では何事も無かったかのようでしたが、中は当然の如く激しく物が散乱し、研究室も特に薬品棚から劇薬物の壘が割れて床を濡らし、本棚は殆どの本が床に拡がっていました。しかし、大学の職員や学生の殆どが無事という報告を聞いた時には皆で歓声をあげたものでした。その後、大学を元通りにする作業は辛い事でしたが、多くの職員が参加しての作業は、21年前の開学の頃に職員一同が兵庫医大を良くしようと一体となって頑張っていた様々な行為が思い返され、とても心温まる思いがしました。

開学から50年を経て大学としては中堅に成りつつある兵庫医科大学。これからは是非絶え間なく改善・改革を続けて、日本は勿論、世界に羽ばたく医療系大学として発展し続けていくよう願っております。



兵庫医科大学の開学50周年を祝して

藤田 幸久 | 兵庫医療大学 名誉教授

同窓会「緑樹会」会員の皆様、兵庫医科大学創立50周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

さて、私は2017年(平成29)3月に2度目の定年(70歳)を迎え、兵庫医療大学副学長(専任)職を退職いたしました。その時の職員番号は「720002」で、職員番号「72……」は兵庫医大が開学した初年度の採用であることを示す。それ以来、2007年(平成19)3月までの35年間、更に兵庫医療大学に移っての10年間、計45年もの間、学校法人「兵庫医科大学」にお世話になりました。正に、私の現役としての人生は、兵庫医大と共に歩んできたことになる。

今回は、兵庫医大の開学当時の思い出などを少し書かせて頂きます。当時、私は大阪工業大学大学院に在学中であった。大学院には、学内特別奨学生として推薦入学した。しかし、日本中の大学で吹き荒れた大学紛争の波は、大阪工大も例外ではなく、1970年(昭和45)には3カ月もの間、全共闘集団によって全学封鎖された。私にとって最悪だったのは、この紛争中に他の学生より優遇された大学院生がいる事が問題視され、在学中に制度そのものを見直すこととなった。1971年(昭和46)2月に、修士論文を提出したものの、将来に何の展望も持てず意気消沈状態であった。そのような中で、兵庫医大への就職の話聞いたのは、1972年(昭和47)6月のことである。すでに兵庫医大は同年4月に開学し、進学課程の化学教室には野田教授(生化学・故人)、中井講師(無機化学)と磯部助手(有機化学)が在籍されていた。次年度から

始まる2年生対象の「化学実験」の準備のために、9月からアルバイトとして、その後、1973年(昭和48)3月1日付で正式に助手として採用された。教授の方針で、研究室の教員構成を化学のほぼ全領域を網羅するように配置するため、最後に物理化学担当の助手を採用したのである。

1973年(昭和48)4月から、医学部2年次の「化学実験」が5号館5階の化学実習室で始まった。火曜日がBクラス(58名)、金曜日がAクラス(60名)で、いずれも午後の3、4時限に行った。前期に12回、後期12回の通年開講科目である。当時の化学実験項目としては、無機化学領域の分析化学実験から始めるのが一般的であった。最初は、陽イオンの定性分析を系統的に行った。この実験は、陽イオンの沈澱剤として硫化水素を用い、硫化水素ガスは腐った卵の臭いがするので、周りの教室からクレームがあり、換気には苦労した。また、我々が予想もしなかったエピソードとして、学生の銀メッキをした高級腕時計の表面が黒変したことである。銀は硫化水素ガスと反応して、黒色の硫化銀を生じる。直ちにアナウンスしたことが思い出される。比較的短時間で終了する項目もあれば、夜の9時、10時までかかる項目もあり、学生も大変だったが、教員もなかなか大変であった。化学実験を通じて、学生の皆さんと大いに話す機会を持てたことは、私を教員として確実に成長させてくれた。また、今日にまで続く準硬式野球部との出会いも、この実習中にあった。(現在、兵庫医大準硬式野球部監督代行、関西医歯薬

系大学準硬式野球連盟理事長)

野球部OB会「迷球会」以外の同窓生の皆さんとの関わりは、大分緑樹会、福岡緑樹会や岡山緑樹会には、発足時より声をかけて頂き、集まりには毎回参加している。同窓生の輝くほどに成長し、地域医療に尽力されている様子を聴きながら酌み交わすアルコールの味は、教師冥利に尽きる。目下、最大の喜びでもある。

末筆ながら、兵庫医科大学の一層のご発展と緑樹会の皆さんの益々のご活躍を祈念致します。

(現在、医療法人山西会宝塚三田病院附属准看護学校校長)



開学50周年を記念してー昔は良かった？

辻田 純三 | 元・生理学第一講座講師、元・健康スポーツ科学講師、現非常勤講師

初めに兵庫医科大学創立50周年をお慶び申し上げます。あわせて緑樹会50周年記念誌に寄稿をさせて頂ける事に感謝いたします。

僕が兵庫医科大学に勤務させて頂いたのは1974年12月、一期生が3回生の冬です。生理学第一講座の初代教授吉村寿人先生からお呼びがあり非常勤講師として一期生の生理学実習を担当せよとの事でした。その後、専任助手として奉職させて頂き今に至ります。吉村教授は京都府立医科大学を定年退職されてからの勤務でしたから在職期間は短かったのですが教えを受けられた皆様には印象深かった事と思います。

一期生には学士入学者も多くおられ、それこそ猛者と称される学生も沢山おられた事が思い出されます。高校時代に同じ競技場で陸上競技をしていた先輩にも出会い、いまだにスポーツ医学の現場では親しくさせて頂いています。

僕自身65歳で兵庫医科大学を定年退職しましたが現在も非常勤講師として勤務させて頂いていますから足掛け50年近く兵庫医科大学でお世話になっていることとなります。

50年を均等に振り返ろうとしてもどうしても若い頃の、昔の思い出の比率がけた違いに高くなるものですね。大学創設当時は一学年のみで学生数も100名あまり、女子学生に至っては10数名ですから全員の名前と顔はすぐに覚えられますし、年齢も近いですから親密になれて当たり前ですね。開学当時は教養課程のみですから5号館に事務、図書館、会議室、食堂、教養部、基礎医学講座が集約されていました。

1975年に基礎医学講座は2号館に移動し、共同研究室が開設されて人工気象室が作られ僕のテーマである環境生理学の実験室となり多くの学生諸兄には被験者になって頂きました。新入生を対象に開催されていた一泊二日の学外オリエンテーションやアドバイザリーシステムも忘れられません。

クラブ活動への教職員の参加も多くあり、部長をされている講座への入局者も沢山ありました。第四内科の野球部、整形外科のラグビー部、泌尿器科の硬式テニス部・・当時から関わりでいまだに硬式テニス部のコーチとして関わりを持たせていただいています。この歳になっても昨年の2月には硬式テニス部の卒業生二人から結婚式への参列を頼まれ喜びましたが、披露宴でご両親にお目にかかるかと新郎のお母様は兵庫医大のテニス部出身、新婦のお父様も兵庫医大出身で二世帯にわたって教鞭をとらせていただき、それこそ教員冥利に尽きる思いをしたものです。

人との出会いは大切なもので、僕が吉村先生から教わった言葉に「一人の医者が救える人数には限りがある。100人の医学生を教育する方がより多くの人を救うことが出来る」がありますが、今日まで教育現場に身を置く大きな原動力となっています。

生理学第一講座時代には講義および生理学実習を、また新たに設けられたレベルアップ科目ではスポーツ医学および現在も継続して行っている「時事問題から医学・医療を考える」を担当させて頂き、また平成記念会館設立後は

健康スポーツ科学の担当をさせて頂き、廃止となっていた保健体育講義及び実技の復活を果たしました。

在職中に椎間板ヘルニア、深部静脈血栓症、肺塞栓、前立腺癌を発症した時も多くの同窓生の方々のお世話になり現在に至っています。

歳を重ねると「昔はよかった」という言葉をよく耳にしますが現在の医療環境を考えると隔世の感があります。今やITの時代となり新たな診断方法や治療方法の開発、電子カルテの導入に始まり先端医療、再生医療や遺伝子治療等が行われるようになりました。

「昔はよかった?」これほどの医療・医学の進歩がみられる今日ですが大切な忘れ物が気になってなりません。医学教育の進歩にも目を見張るものがあります。医学教育として人間学の教育は十分になされているのでしょうか? クラブ活動をはじめとして昔は多くの人との繋がりが沢山あったものですが・・・。

新設医科大学が自立するには50年を要すると言われていています。兵庫医科大学出身の同窓の先輩も既に教授職を全うされて退任されていますし、最近では若手の同窓も教授職に多くつかれています。「権威的な医師ではなく患者に寄り添う医師になれるか」開学50周年を機に兵庫医科大学創設者の森村茂樹先生の建学の精神「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を踏襲された同窓の方々による新たな兵庫医科大学が構築されることを期待して筆をおきたいと思います。



兵庫医科大学

部活動のご紹介

現在、兵庫医科大学には28の部活動があり、学生たちが日々、学業と両立しながら練習や活動に励んでいます。また、部活OBが練習参加するなど、卒業生と現役学生の接点が生まれる機会のひとつにもなっています。今回は各部からいただいたメッセージや活動報告などをご紹介します。今後の各部の活動への応援をよろしくお願いします。

アメリカンフットボール部 部長:谷野 龍一郎



アメリカンフットボール部では、春と秋に行われる試合はもちろん、そのほかの期間においても、さまざまな学校と練習試合を行ったり積極的に活動しています。部内のメンバーのほとんど全員が未経験者ながら、前向きに練習に励んでいます。今後も精力的に活動していきますので、応援よろしくお願いします。

@siegfried_football

HP



サッカー部 部長:久保 佳寛



サッカー部は春に合宿を行い4月～5月にかけてリーグ戦を戦います。リーグ戦は2022年時点で1部に在籍しております。6月ごろには中四国大会や関西大会があります。夏休みに西医体に参加をして、全医体を目指します。西医体後に幹部を交代して、秋大会に挑みます。11月～1月はオフ期間になります。今後とも応援よろしくお願いします。

@hcm_.soccer

HP



準硬式野球部 部長:丸山 大起



準硬式野球部です。火木土、鳴尾浜総合グラウンドで活動しています。現在の部員は、プレイヤー14人、マネージャーは10人となっています。春秋はリーグ戦、夏は西医体という大会に向けて、部員みんなが真面目に取り組んでいます。今後も、公式戦に向けて精力的に励んでいくとともに、部員みんなが楽しくプレーできるように取り組んでいきます。

@hcm_baseball_marumaru

HP



ラグビー部 部長:小山 佳輝



私たちは火、水、土曜日を中心に、現在プレイヤーが19人、マネージャー18人で鳴尾浜グラウンドにて活動しています。コロナ禍で活動が制限されておりグラウンドでの活動は十分にできない状況が続いていますが、練習が再開する際には連絡させて頂くので、OB・OGの皆さん練習や西医体に出していただければ光栄です。

@hcmrhc

HP



ゴルフ部 部長:小西 孝明



練習は週に2回の打ちっぱなし場での練習を基本に、ショートコースを回ったり、夏期、春期の長期休暇には合宿を行っています。ほとんどの部員が大学入学後にゴルフを始めましたが、日々の練習にはコーチングプロに来て頂く等、技術の向上に努めており、春季や夏季に開催される各種大会に、多くの部員が出場しています。

@hcm_golfteam

HP



競技スキー部 部長:佐藤 宏樹



今年はたくさんの新入部員が入ってくれました!みんな明るい子たちばかりで、より活気ある部活になりました!場の雰囲気盛り上げてくれるようなムードメーカー的な存在の子、スキーを頑張りたい!という子など、新入部員のひとりひとりがスキー部をより良い部活にしてくれています!

@hcm.racingskiteam

HP



アーチェリー部 部長:岩崎 健太



アーチェリー部は週二回平成記念会館裏のアーチェリー場で活動しています。現在の部員数は50人で、2021年度は1年生が14人、2年生が9人が入部しました。今年度ならびに前年度はコロナの影響であまり活動できていませんが、例年は西医大、全医大、神戸杯の3試合に参加しています。再開後は再び入賞そして優勝を取れるよう頑張ります。

@hcm_archery

HP



合気道部 部長:葉丸 武司



今年は一年生も3人入ってもらいました!11月まで活動を続けておりましたが、現在は休部状態で新歓の準備を中心に進めております。今年もよりたくさんの一年生に入ってもらえるよう頑張っていきますので応援いただくと大変ありがたいです。またコロナが落ち着きましたOBOGの皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

HP



剣道部 部長:松村 浩樹



こんにちは!兵庫医科大学剣道部です。男子7人、女子4人の計11人で毎週月・水・木曜日に稽古をしています。過去2年開催はありませんでしたが毎年11月に開催される醫聖祭では剣道部伝統のたこ焼きの模擬店を出店しています。感染症の影響で課外活動制限中ではありますが、今後も部員一同『武徳』の言葉のもと、日々稽古に励んでいきます。

@hyogomedsamuhai

HP



柔道部 部長:竹村 司



キャプテンの竹村です。私たちは部員総数6人と顧問の先生方と楽しく活動しております。先生方が来られない日は練習メニューを自分たちで考え精一杯練習しております。現在は西医体に向け部活動再開を待ち望んでいる状況です。最後に、ob,ogのご支援のもと活動させていただいていることに感謝いたします。

@hcm_judo_judo

HP



卓球部

部長: 仲谷 昌悟

卓球部では、去年の4月に1年生が1名入り、男子9人、女子10人の計19人で初心者、経験者ともに切磋琢磨しながら部活動に励んでおります。週2回(月、水)2時間で活動していましたが、現在はコロナの関係で部活動や大会や練習試合等はすべて中止となっている状況です。今後も部員一同次の大会に向け、日々練習に励みます。



@HCM_TTC

HP



バスケットボール部

部長: 坂本 慶一路



バスケットボール部は部員数50人ほどで年に大きな大会が5大会あり、週3回男女共に大会に向けチーム一丸となって練習をしています。練習以外にも様々なイベントがあり、先輩後輩仲良く活動しております。OB,OGの皆様のご支援を賜りながら様々な活動を出来ている事に感謝しながら西医体優勝を目標に日々精進していこうと思います。

@hcm_basketball

HP



水泳部

部長: 矢代 順哉

水泳部は現在部員13名で活動しています。活動では部員の泳力や体力に合わせた練習を行うことを目指しています。コロナ禍により思うように練習することができず厳しい状況ではありますが、部員同士の結束を強め乗り切っていきたいと思っています。応援のほど宜しくお願い致します。



@hcm_swim

HP



ヨット部

部長: 数井 雅士

現在所属している部員数は1年生2人、3年生5人、4年生2人、5年生2人です。現在新型コロナウイルスの拡大により、十分な練習ができておらず西医体も2年中止になってしまいました。OB,OGの皆様が残してくださった伝統を背負いながら活動していきます。今後ともヨット部への変わらぬご支援とご声援のほど宜しくお願い申し上げます。



@hcm_yacht

HP



バドミントン部

部長: 玉井 元



バドミントン部は月水金の週3で活動を行なっています。現在、幹部が男女6人、一年生が男子9人、女子3人います。イベント等多く部員同士とても仲が良いのが部の特徴です。ほとんどが未経験からのスタートですが、前向きに練習し、他大学と練習試合を通して実践経験を積んでいます。今後も練習や他大学との試合を通じ、バドミントンの上達に励みます。

@hcm_badminton

HP



バレーボール部

部長: 西森 大智



こんにちは兵庫医科大学バレーボール部です!バレー部の部員は週3日、女子は週2日練習に励んでいます。部員は年々少なくなっていく一方ですが、それなりに楽しくやらしてもらっています。西医大では、目標である1日目突破を掲げてやっていきたいと思っています。

@hcmvolleyball

HP



ワンダーフォーゲル部

部長: 児玉 玲於

学外・遠方の山で活動することが主体の我が部はCOVID-19による部活動の制限によって、実質ほとんど活動ができておりません。現在、立山合宿も実施できておらず残念な状況です。OB・OGの先生方が残してくださったワンダーフォーゲル部の和やかな雰囲気は今後も残していくために、部員一同精一杯努力してまいります。先生方の温かいご支援をいただければ幸いです。



@hcm_wander

HP



陸上競技部

部長: 石原 尚輝



兵庫医科大学陸上競技部です。陸上競技部では、毎週火曜日と金曜日に活動しており、火曜日は武庫川河川敷で、金曜日は尼崎陸上競技場で活動しています。部員数も40人と多く、部員の仲間とても良いです。軽く運動したい方向けのダイエット部もあり、火曜日のみ活動しています。

@hyoi.rikubu

HP



硬式庭球部

部長: 平野 雅也



2021年度は、一年生が5人(男2女3)・二年生が4人(男2女2)が入部をし、一年生から五年生 計23人で活動しています。現在はコロナ禍で部活動が制限を受けていますが、施設の消毒や人数制限を実施したうえで練習を行なっています。夏の西医体に向けて頑張っています。今後ともご支援、温かいご声援よろしくお願い致します。

@hcm.tennis

HP



軟式テニス部

部長: 青木 一泰



私たちは毎週月、水、土曜の週3日東鳴尾テニスコートにおいて男女一緒に練習しています。通称『軟テ』です。西医体や全医体、そして医歯薬の大会に向けて練習を頑張っていきたいと思っています。今、コロナ禍において部活動は制限されていますが部活動が再開できる日が待ち遠しいです。応援、ご支援の程よろしくお願い致します。

@hyoinannshikitennis

HP



英語部

部長: 高坂 侑希

英語部では、週一回お昼休みに、日常的な会話や、部員の興味のあるトピックを取り上げて英会話を楽しんでいます。コロナウイルスの影響で、IFMSA(国際医学生連盟)を通じての留学ができないなど、部活の継続的な実施が難しいながらも、部員一人ひとりが楽しみながら英語力をレベルアップしています。部員が英語を学ぶことを通じて明るく元気になれるよう新しい企画を考え、これからもしっかりと盛り上げていきたいと思っています。



@hcm_english

HP



軽音楽部

部長: 白 直隆

軽音部では楽器初心者、経験者関係なく音楽が好きの人が在籍しており楽しく活動しています。また、70名以上の部員が在籍しております。皆で練習した曲を合わせ、いい演奏が出来るよう試行錯誤した上で披露するライブの楽しさはなかなか経験できない貴重な体験です!SNSでも活動の方投稿していますのでそちらもよろしくお願ひします。



@hcm_keionbu_

HP



@hcm_k_on

室内楽団

部長: 瀬尾 咲子

コロナ禍により、依然として大きな活動はできておりません。一方で、昨年は沢山の
新入部員に恵まれ、苦勞せずアンサンブルが結成できそうな
部員数になりました。



これからさらに室内楽団が盛り上がっていくのではないかと期待
胸が高鳴り、活動再開が待ち遠しい毎日です。OB・OGの
皆様、情勢が落ち着きましたら是非、部にいらしてください。

@hcm_hums_orch

HP



ダンス部

部長: 宮崎 玲子



昨年は、新型コロナウイルスの影響で行えていなかった部活動
体験を行うことができ、1年生11人、2年生9人が入ってくれまし
た。現在、FUNKや学祭を開催することが難しい状況のため、
部活内発表という形で1.2年生のデビューを考えており、それ
に向けてジャンルごとに練習を進めています。またその様子も
SNSに載せるので、是非ご覧ください。

@hcm.dancing.club

HP



ボランティア部 ~with you~

部長: 渡海 詩野



兵庫医科大学ボランティア部~with you~は、週に2回活動を行
なっています。現在、新型コロナウイルス感染症対策のため病
院内での無料の本の貸し出しという活動は中止しております。今
は貸出に使う本の製本作業を中心に活動を行なっておりますが、
現在コロナ禍での新たな活動ができないか検討中です。コロナ
禍で活動しにくい状況が続きますが、これからも先輩方が繋
いでくれた伝統を守りながら精進していきたいと思いま

HP



家庭科部

部長: 杉谷 真奈

家庭科部は、学祭で販売する作品作りを
主な活動としていま
す。部員は現在15名
で、手芸や可愛いも
のが好きな人が集
まっており、アット
ホームな雰囲気
で過ごすことが出来
ます。途中入部でも
馴染みやすいです。
部員全員が兼部して
おり、自分の時間に
合わせて活動を楽し
むことができます。
この2年間は学祭が
中止で、大きな活
動がなかったので、
2022年は活動がた
くさん出来たら嬉し
いと思っています。
今年度も頑張ります。



HP



マジック研究部

部長: 和泉 雅史

当部は2016年より同好会として活動を始め、
2018年に部活動に昇格した歴史の浅い部
です。部員数は10人前後と小規模で
すが、好評を頂いている大学祭での
ショーに向け、練習に励んでいます。
2021年よりマジックに加え、
ジャグリングを活動に取り入れました。
個々人のスキルアップとともに、
活動の幅を広げていきたいです。



HP



美術部

部長: 渡辺 真魚

我が美術部は、油絵、水彩、粘土、彫刻と多岐にわたった創作活動を行う、
文化部のひとつです。課外活動として、
美術展を巡ったりもします。我が美術部
は特定の活動日を設定していません。
描きたいとき、創りたい時、自由に活
動に励んでいます。部員の中には初
心者から始めた者もいますが、美術
を楽しむ気持ちを持って、今後も
部員みんなで精力的に活動していきま
す。



HP



写真部は休部中です。

アスリートを支える

アスリートとともに～小学生からプロアスリートまで～

大井 雄紀 (平成16年卒業) | 大井クリニック 院長



緑樹会会報誌をご覧の皆様、こんにちは。

偉そうに寄稿出来る身分ではないのですが、アスリートを支えるというコラムの原稿依頼を受けこの上ない喜びを感じております。兵庫医科大学学生時代はかなり足をひっぱる存在であった私が、卒後医師となりその後努力してきた事が報われた気が致します。これもひとえに整形外科に出局し吉矢元教授に出会い、信原先生、田中先生と素晴らしい上司に巡り会えたからだと思っております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

スポーツ整形外科医の使命とは、患者さん(アスリート)にとって大切な試合はいつか、いつまでどのような形で競技復帰する事が出来るかを共に考え、そのお手伝いをする事です。それは小学生でもプロのスポーツ選手でも変わりません。ただ、小中学生の場合は大人と異なり、成長過程である事を加味しなければいけません。スポーツ整形外科医としてアスリートがいかに障害を残さず競技復帰出来るかを常に考えております。その為には疾患を知り、なぜその疾患が生じるかのメカニズムを知る必要があります。

信原病院バイオメカニクス研究所で非常勤も含め合計6年間お世話になり、整形外科医として、肩関節を学びながら、ハイスピードカメラを用いた投球動作解析を行ってまいりました。兵庫医科大学大学院の博士論文も投球動作解析の研究でした。アメリカで投球動作解析を行う為に、American Sports Medicine Institute(ASMI)に半年間

留学致しました。ASMIという施設はDr. James Andrews(藤川球児元投手やダルビッシュ有投手の主治医)のLaboで、メジャーリーグの投球数制限を設けるなど投球障害に精通している研究所です。そこで私が行ったのは、信原病院のデータをお借りし、「日米プロ野球投手の動作解析による投球フォームの相違について」の研究でした。

2020年、日米通算で811試合、61勝39敗245セーブ164ホールドの生涯成績を残し、WBC日本代表でも活躍された藤川球児当時投手から共通の知り合いを通じて私に連絡がありました。当時藤川球児様は肩関節、肘関節の痛みをおして、1軍のマウンドで戦っておられました。スポーツ整形外科医として、少しでも痛みを軽減し、シーズン中の超一流投手に少しでもご自身で満足できるような一緒に考えました。肩関節や肘関節にブロック注射を打ってでも痛みを軽減したいと考えておられたので、右肩肘関節にブロック注射を行いました。その中で、藤川球児様は、疼痛があり、パフォーマンスにご自身で満足いかず、なにより球団の事を第一に考え、引退を決断されました。ただ、ファンとの約束を果たしたいと引退までに150km/hrを出すことを目標にされておられたので、当院でシーズン中はあまり行わない右肩肘関節造影を行いました。その翌日甲子園で登板され無失点に抑えました。その雄姿を観て、スポーツ整形外科医として至極の喜びを感じました。勿論球児様の精神力、ポテンシャルが想像を絶するものであること

は言うまでもありませんが、その後の引退試合はご存知の通りです。超一流アスリートの引退前集大成の時期にスポーツ整形外科医として治療に携わった事は私の誇りです。

今後も小学生からプロのアスリートにとって、それぞれの大切な試合で少しでも疼痛が軽快しパフォーマンスが上げられますようお手伝いが出来れば幸いです。



HYGGEな時間の過ごし方 -Denmark Aalborg University-

奥谷 博愛 (平成21年卒業) | 麻酔科・疼痛制御科 講師



緑樹会の皆様、こんにちは。2009年(平成21年)卒業の奥谷博愛と申します。2014年の大学院進学とともに兵庫医大麻酔科・疼痛制御科のメンバーとして在籍しております。学生時代より疼痛メカニズムに興味があり、大学院では解剖学(神経科学部門)で疼痛に関する基礎研究に従事して学位を取得しました。そして主任教授である野口光一教授より、国際疼痛学会(IASP)のPresidentを務めていたLars Arendt-Nielsen教授を紹介して頂いたことがきっかけとなり2019年9月からデンマークのオールボー大学へ2年間の留学を実現することができました。

私は疼痛に関する基礎から臨床研究まで幅広く行っているCNAP(Center for Neuroplasticity And Pain)という組織に属しており、トランスレーショナルリサーチを学びたい私にとっては最適な環境でした。私の研究テーマとしては、日本では行うことが難しい健常ヒトボランティアを対象として、鎮痛薬であるモルヒネが副作用として搔痒を生じる機序を解明するための研究を行ってまいりました。Bossから「日本で研究プロトコルを完成させてから渡欧しなさい。」という指令が下り、これが私にとって最初で最大の試



Prof. Nielsenとの一枚

練でした。というのも、全く未経験の研究であり、見たことも使用法も分からない機器、薬剤に関連論文だけを頼りにプロトコルを作成するという雲をつかむような話でした。今思い返してもそのときの苦労は想像を絶するものがあります。また渡欧後も物品・薬剤のオーダーや大学から病院への器材搬送手続きなど困難を極めましたが、有り難いことにラボの仲間達が親切に助けてくれたので何とか乗り切ることができ、2つの研究を完遂することができたことは感謝の念に堪えません。

オールボーはデンマーク北部に位置する第4の都市であり、人口約12万人と平和で自然の多い閑静な街です。北欧ということで9月頃～4月頃までと長く寒く暗い冬の時期を迎えます。そんな中、デンマーク人は“HYGGE”という概念を大切にしています。日本語で訳すと、“家族や仲間と過ごすゆったりとした居心地の良い空間”といった意味です。そういった文化に直接触れることができたのは自分を見つめ直すという観点から非常に有益なものでした。日本では臨床業務が忙しく、自由時間や睡眠時間を削って勉強や研究をするといった生活が当たり前だったのが、有意義な人生を送るためには



オフィスメンバーとの会食

どうするべきかという時間の使い方について深く考えさせられました。デンマークでは2020年初頭からCOVID-19が流行り始め、スーパーマーケットと薬局以外は全て閉鎖するというロックダウンが行われました。在宅での仕事を余儀なくされ、行動制限や国境封鎖があり外出もままならない状況となりましたが、論文執筆の時間や家族揃っての時間を長く過ごすことができたのはとても貴重な経験だったと感じております。またコロナ禍でありながらも人種差別や生活面での不安を抱えることがなかったのは私達家族にとっても不幸中の幸いでした。

最後になりましたが、今回の留学は家族の支えならびに上司・同僚のサポートなしでは為し得ませんでした。またこの度、留学の機会を与えて下さった解剖学 野口教授、ご支援を頂いた麻酔科・疼痛制御科 廣瀬教授ならびにスタッフの皆様がこの場を借りて心より御礼申し上げます。末筆ではございますが、本留学の経験を生かして今後の臨床・研究・教育に生かし後進の育成に役立てていく次第でございます。何卒引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



Aalborgの街並み

From HCM to NEJM, and to the NEXT ~Change the Practice~

内田 和孝 (平成12年卒業) | 兵庫医科大学 脳卒中センター 准教授



この度、当院 脳神経外科 吉村紳一教授が、2022年2月10日に国際脳卒中学会にて、世界初の広範囲脳梗塞病変に対する脳血管内治療の有用性を示した研究結果を発表し、同時にNew England Journal of Medicineに本研究論文をリリースしました。私は、当科の別府幹也先生とともに事務局として、本研究の準備からNEJMの掲載まで、全過程に深く携わり、多くの経験をさせていただきましたので、この貴重な経験を緑樹会の先生方と共有させていただきたく存じます。

我々の研究グループは、2014年から脳血管内治療の有用性を証明するRCTをスタートし、同時に登録研究も行なっていました。しかし、2015年2月に脳血管内治療の有用性を示すRCTが欧米から連続して発表され、エビデンスが確立されたため、我々のRCTは18例でストップとなりました。RCTの適格基準以外の症例や内科的治療のみの症例も含んだ登録研究は2016年まで継続し、2408例登録されました。この登録研究のデータより、垣田寛人先生(H15卒)が、本研究の対象である広範囲脳梗塞に対する脳血管内治療の有用性を報告しました(Kakita H, Yoshimura S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Morimoto T. Stroke 2019)。この結果を用いて、吉村先生と本学の臨床疫学教室 森本剛教授のご指導の下、本研究の主要評価項目を脳梗塞発症後90日後に自力歩行可能になった患者の割合としました。その割合を血管内治療群と内科的治療群と比較することとし、血管内治療の有効性を

示すためにサンプルサイズを設定しました。続いて、研究計画書、画像解析計画書、統計解析計画書、症例報告書(CRF)を作成し、Clinical Trial Govに研究登録を行いました。日本全国で協力施設を募り、スタートアップミーティングを行い、45協力施設の倫理委員会に承認をいただき、2018年10月1日から研究を開始しました。当初、症例登録は順調でしたが、コロナ感染症の影響で、症例登録が激減しました。同様の研究が、世界で4つ進行しており、登録がなかなか進まない状況下、研究協力施設の先生から、「血管内治療群で、出血し転帰不良となりました。」とのお話を聞いた時には、「大丈夫かな?」と、焦り、不安になることもありましたが、サンプルサイズの設定を信じて突き進みました。吉村先生より、研究協力施設に頻繁にメールや電話で、症例登録のお願いをしていただき、研究開始から3年で203例の登録を達成することができました。我々医局員も一丸となって、21例登録しました。2021年7月からは、症例登録と並行で、クエリ作業(外れ値などのデータを各施設に問い合わせる作業)や、研究の質を担保する作業(中央モニタリングによる画像判定、イベント評価委員による判定)を行いました。画像評価委員長を緑樹会会長の石蔵礼一先生にお願いし、安藤久美子先生にもお手伝いいただき、全症例の画像を讀影していただきました。この作業は研究の終盤であり、残された時間が少なく、石蔵先生には、休日返上で、時には兵庫医大まで来ていただいて読影をお願いしました。また、イベント評価

委員を当科の榊原史啓先生と金城典人先生が担いました。吉村先生、森本先生の指導下、数例のデータが揃ってない段階の2021年11月3日から論文作成を開始しました。Table、Figureの数値のミスが何度も見つかり、自身自身を信じることができなくなることもありましたが、NEJMからRevisionが返され、その対応に徹夜の実行作業をしましたが、最短で採択を得ることができました。主要評価項目の結果は、サンプルサイズの設定時の計算結果に極めて近い、ニアピン賞でした。これらは、全国の45施設ならびに、患者さんのご協力の下、主に兵庫医大のメンバーで構成されたチーム力で勝ち取った成果だと思えます。

NEJMが採択する論文のコンセプトはChange the Practiceとのことです。本研究は、今まで脳血管内治療の適応がないとされてきた患者さんに対しても、血管内治療を受ける機会を拡大できることを示しました。兵庫医科大学は開学50年、4月には統合して新しい大学になります。もう新設医大ではなく、今回の研究で、臨床研究でも世界最高峰の舞台に立てることが証明できました。今後も緑樹会の皆様



の力を結集して、世界のトップに肩を並べる大学に向かって進みましょう。

International Stroke Conference 2022 Opening Main Event Scienceの紹介画像

- 1 掲載医学誌
- 2 論文タイトル
- 3 著者

New England Journal of Medicine (February 9, 2022). DOI: 10.1056/NEJMoa2118191

Endovascular therapy for acute stroke with a large ischemic region

Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Takeuchi M, Yazawa Y, Kimura N, Shigeta K, Imamura H, Suzuki I, Enomoto Y, Tokunaga S, Morita K, Sakakibara F, Kinjo N, Saito T, Ishikura R, Inoue M, Morimoto T.

箕面市初となるペインクリニックを開業

野村 肇 (平成19年卒業) | のむらペインクリニック 院長



令和2年4月開業
のむらペインクリニック

診療科目 ペインクリニック内科・麻酔科
所在地 箕面市箕面6-5-7
くもんびあ箕面3F
TEL 072-723-1900
URL https://nomura-pain.com/

令和2年4月1日、最初の緊急事態宣言発出とほぼ同時期に「患者さんによりそった痛みの治療を」をモットーとして、地元である大阪府箕面市にペインクリニックを開業しました。周囲からは開業のタイミングを心配されましたが、家族やスタッフをはじめ、アドバイスを頂いた先輩方や友人、開業準備段階から当院に関わっていただいている沢山の方々のおかげで、もうすぐ丸2年が経ちます。当初、ペインクリニックが箕面市になかったため認知度も低く、まずはペインクリニックとは何かを知ってもらうところからのスタートでした。当院では、エコーや透視装置を併用した神経ブロックを主体とした腰椎・胸椎や頸椎由来の痛み・帯状疱疹後の痛みや頭

痛、その他さまざまな痛みの治療を出来るだけ安全に正確に短時間でを行っています。しかし、注射と聞くと怖がられてしまったり、思うようにいかない事も数々経験してきました。その度に、反省し改善出来ないかと模索しながらの日々を送っています。以前診ていた患者さんや、知り合いの先生方や箕面市民病院(麻酔科医として週1回非常勤勤務)の先生方から紹介いただいた患者さんも多く受診され、何とか継続できております。今後も一人でも多くの患者さんの満足のためいく治療ができるように精進していく所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

夙川グリーンプレイスに「とみい眼科クリニック夙川」を開業

富井 厚 (平成8年卒業) | とみい眼科クリニック夙川 院長



令和3年9月開業
とみい眼科クリニック夙川

診療科目 眼科
所在地 西宮市大谷町7-1
夙川グリーンプレイス 2F
TEL 0798-34-5575
URL https://tomiiganka-s.com

令和3年9月7日より夙川グリーンプレイスにて「とみい眼科クリニック 夙川」を開業しました。私は平成8年兵庫医大を卒業し、兵庫県内の病院の勤務医を経て平成21年より宝塚市のとみい眼科クリニックで従事していました。当院は宝塚市にあります「とみい眼科クリニック」の分院として開設しました。分院でも本院で培ってきた診療や手術加療の経験を活かして患者様に最適な医療が提供できるよう努めてまいります。また、近年、学童近視が急増してきており、とくに東アジア諸国では若者の80~90%が近視になるなど甚大な問題となって来てい

ます。身近な話でも、学校検診で視力検査の用紙を持ってくる学童の近視化傾向は年々増していると実感するようになりました。そこで、今まであまり積極的に出来なかった近視の治療にも取り組んで行こうと考えています。夙川グリーンプレイスという施設は周辺からは少々分りにくい立地なのですが、敷地内に入ると周りの喧騒から離れた居心地の良い場所で毎日多くの方が訪れています。これから少しずつでも周りの方々に知って頂き地域医療に貢献できるよう努力していきますので、何卒よろしくお願い致します。

形成外科学(形成外科) 河合 建一郎 | 兵庫医科大学 形成外科学 准教授

1 スタッフ

◆主任教授/垣淵 正男 ◆臨床教授/西本 聡 ◆准教授/河合 建一郎 ◆講師/藤原 敏宏、石瀬 久子(平成19年卒業) ◆助教/齋藤 拓也(平成21年卒業)

2 得意とする分野

眼瞼の手術、顔面神経麻痺、頭頸部や乳房などの悪性腫瘍切除後の再建

3 実績

2021年 眼瞼下垂や内反を含む眼瞼手術281例、皮膚腫瘍手術255例、頭頸部・乳房などの再建手術84例、顔面骨折手術36例、顔面神経麻痺手術14例

4 注力している研究

①創傷治癒メカニズムの解明 ②顔面骨折画像への人工知能応用



緑樹会会員の先生方、大変お世話になっております。日頃より当科の診療に格別のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。形成外科は2006年より初代主任教授として垣淵正男が就任スタートしました。当科は皮膚腫瘍や顔面骨折といった形成外科一般の治療のみならず、もともと耳鼻咽喉科内形成外科班であったことから頭頸部腫瘍切除後の再建手術を多く

行ってきました。現在では多くの外科系他科と協力し、悪性腫瘍切除後の広範な組織欠損の再建手術を行っております。また当科の特徴の一つとして眼瞼関連の手術が多いことがあげられます。眼瞼下垂症手術では日本でトップレベルの症例数を誇り、これもひとえに緑樹会の先生方からのご紹介のおかげと感謝しております。その他、実施施設の少ない顔面神経麻痺に対する静的・動的な外科的手術治療や

甲状腺眼症に対する眼科減圧手術なども積極的に行っており、今後も大学病院ならではの特殊疾患について症例数や手術適応の拡大を目指し医局員一同日々の診療・研究に精進して参ります。緑樹会の先生方には平素より多くの患者様をご紹介いただきましてありがとうございます。今後も診療体制の拡大を目指して力を注いでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

糖尿病内分泌・免疫内科学(糖尿病・内分泌・代謝内科)

楠 宜樹 (平成16年卒業) | 糖尿病内分泌・免疫内科学 講師

1 スタッフ

◆主任教授/小山 英則 ◆講師/楠 宜樹(平成16年卒業)、小西 康輔(平成16年卒業)、角谷 学 ◆助教/角田 拓(平成21年卒業)、角谷 美樹、三好 晶雄(平成24年卒業)、大東 真菜(平成25年卒業)、森本 晶子(平成25年卒業)

2 得意とする分野

糖尿病・内分泌・代謝疾患の診断と治療、とくに先進デバイスを用いた血糖管理、副腎腫瘍をはじめとした副腎疾患の診断と治療など

3 実績

2020年度入院患者数595名、共観患者数1,449名

4 注力している研究

血糖変動・睡眠障害・自律神経障害などと認知症や動脈硬化性疾患発症・進展との関わりについての臨床的 (HDHCC研究・HSCAA研究)・基礎的研究



緑樹会会員のみなさま、平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。当科では、2型糖尿病、脂質異常症といったいわゆる生活習慣病はもちろんのこと、1型糖尿病、副腎腫瘍や甲状腺機能異常などの内分泌疾患、家族性高コレステロール血症などの遺伝性疾患といった高度な専門性を必要とする疾患まで幅広く対応しております。とくに、持続グルコースモニターや持続皮

下インスリン注入といった先進デバイスを用いた血糖管理を積極的に行っており、わが国でも高い評価を受けています。さらに、各診療科との連携のもとで、肥満外科手術、副腎腫瘍のアブレーション治療といった最先端の治療も積極的に行っております。糖尿病・内分泌・代謝性疾患は、認知症や動脈硬化性疾患をなどのさまざまな合併症の発症・進展に関わり、患者さ

んの寿命や生活の質に悪影響を与えます。そのため、当科では合併症を阻止することを目的として、さまざまな臨床・基礎的研究を行ってきております。今後も阪神間の糖尿病・内分泌・代謝診療における診療拠点としての役割を果たせるよう努力を重ねて参ります。緑樹会の先生方におかれましては今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

ご協力ありがとうございました

緑樹会アンケート結果(前編)

緑樹会では、卒業生の生活形態・就業状態の実態や、今後の兵庫医大および同窓会に期待すること、そしてダイバーシティについてどのような意見を持っているか等を調査し、今後の同窓会活動の参考にすることを目的として卒業生の動向調査を実施しました。今号から2回にわたってご紹介します。

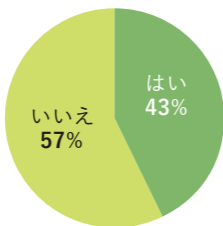
■調査期間:2021年12月~2022年1月、■調査対象者:3,779人(2021年12月1日時点の緑樹会正会員※住所不明者を除く)、■回答件数:743件、■年代別回答数の比率:60~70代 36%、40~50代 45%、20~30代 19%

お子様の進学について

お子様がいると回答した方は79%でした。18歳以上のお子様がいる方うち、「お子様が医師または医学生」は43%、お子様がいる方うち、「お子様を将来、兵庫医大に進学させたい」は53%でした。同窓会に希望することにおいても、「入学相談」は、「就職」、「開業相談、開業斡旋(継承など)」に次いで多い結果となりました。

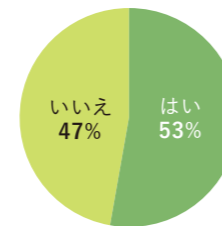
Q1

18歳以上のお子様がいる方にお聞きします。お子様が医師または医学生がいらっしゃいますか?



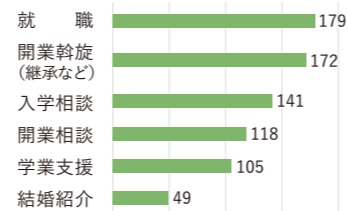
Q2

お子様を将来、兵庫医科大学に進学させたいですか?



Q3

同窓会に希望することはありますか?(複数選択可)



NEWS

入試「卒業生子女枠」2023年度から新設

2023年度医学部入試から「総合型選抜(卒業生子女枠)」が新規導入されます。(2022年3月9日 緑樹会定期理事会にて野口光一学長より発表) 詳細につきましては改めてご案内いたします。



広報 橋本 昌樹

同窓会について

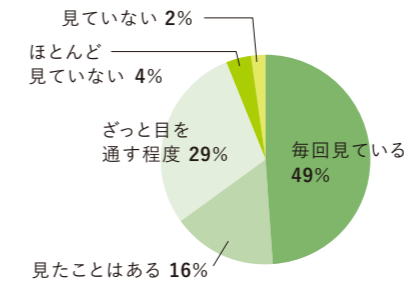
会報誌についての評価では、「毎回見ている」49%、「必要な部分だけ見ている」16%、「ざっと目を通す程度」29%、あわせて94%が会報誌をご覧いただいていることがわかりました。一方、同窓会活動については「興味がある」7%、「どちらかというと興味がある」15%で、あわせて22%に留まりました。

会報誌をご評価いただきお礼申し上げます。緑樹会活動は“兵医”を感じる良い機会です。皆様のご参加をお待ちしています。



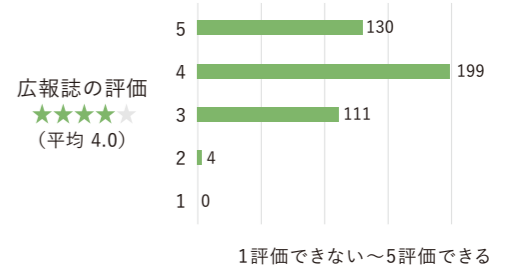
Q6

広報誌を見ていますか?



Q7

毎回見ている(見たことはある)と選択した人に質問します。広報誌の評価はいかがでしょう?



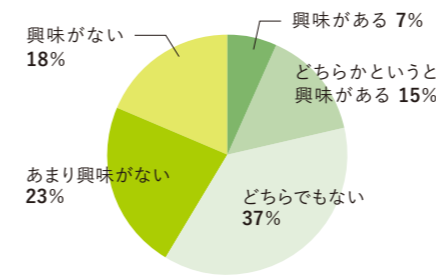
Q9

同窓会に期待することを教えてください

- 大学を離れて働いている医師が参加しやすい研究会や卒業年度別の同窓会などの開催サポートをしていただきたい。(昭和63年)
- 兵庫医大卒業生同士が交流したり、仕事の上で助け合うことが出来るような取り組みを期待します。(平成3年)
- 休職中や人材不足の際に信頼できる卒業生を紹介する仕組みを作って欲しい。(平成7年)
- 同窓会を通じて、いろいろな先生方と交流できる場があればいいと思います。(平成8年)
- 同窓会の繋がりを上手に活用して垣根のない診療に生かしていけたら素晴らしいと思います。(記載なし)

Q8

同窓会活動に興味がありますか?

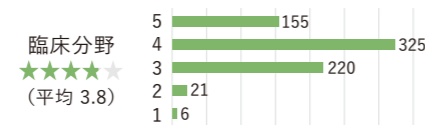


今後の兵庫医科大学について

兵庫医大の臨床・研究・教育3分野について、現在の評価より今後の発展に期待する回答が多い結果となりました。兵庫医大の臨床・研究・教育の3分野について現在も一定の評価がされていますが、さらなる発展を期待する回答が多い結果となりました。

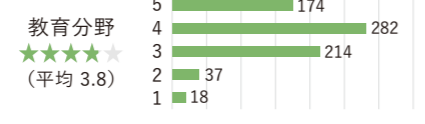
Q4

現在の兵庫医大について最もよくあてはまる回答を選択ください



Q4

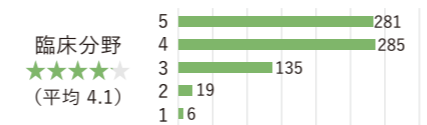
現在の兵庫医大について最もよくあてはまる回答を選択ください



1評価できない~5評価できる

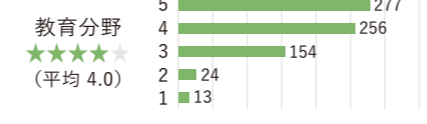
Q5

今後の兵庫医大に期待すること



Q5

今後の兵庫医大に期待すること



1評価できない~5評価できる

1評価できない~5評価できる

新生の兵庫医科大学では、多職種連携を重視しながら、先生方に診療・教育・研究の3領域とも評価していただける大学を目指します。

兵庫医科大学副学長 池内 浩基



NEWS

法人理事に卒業生から3名新任

2022年4月1日付けで、学校法人兵庫医科大学理事に大江与喜子先生(S53卒)、石藏礼一先生(S57卒)、池内浩基先生(S62卒)が就任しました。



JDDW2021 第29回 日本消化器関連学会週間 第25回 日本肝臓学会大会



会長 飯島 尋子(兵庫医科大学 消化器内科学)

去る2021年11月4日(木)、5日(金)の2日間にわたり、「第25回日本肝臓学会大会」を開催いたしました。昨年に引き続いてのハイブリット開催となりましたが、Covid19感染症が若干減少し、かつ好天にも恵まれ、22,000名を超える多くの方々にご参加を賜りました。また現地参加ならではの活気が少し戻り、笑顔もあふれた会となりました。改めてオンライン開催のメリットを感じると同時にWEBとは異なる学会の魅力についても再確認いただけたのではないかと思います。

今回、SDGsに着目し「明日の肝臓学へ～クロスボーダーの挑戦～」をテーマに掲げました。思っていた通り、基礎から臨床研究にいたるまで、領域を越えて肝疾患の最新トピックを学ぶことが出来ました。肝臓学会の将来を見据える中、肝疾患の基礎・臨床に関する多くの重要課題の克服には、肝臓学における多様性に富む専門領域や性別などあらゆる意味でのダイバーシティ&インクルージョンの重要性を感じてもらえたら幸いです。

今年7月には、本大会主催の市民公開講座を予定しております。講師には本学教員の他、武庫川女子大学研究所所長・京都大学名誉教授の家森幸男先生をお招きし、食と消化器と長生きの秘訣についてご講演いただきます。

最後になりましたが、今回無事に終了することができましたのも、大会に携わってくださった全ての皆様のご支援とご尽力の賜物と、誌上を借りて深く感謝申し上げます。



第116回医師国家試験 報告

第116回医師国家試験において、本学は受験者総数115名中、合格者は111名(新卒104名、既卒7名)、合格率は96.5%でした。医師として新たな門出を迎えた111名の合格者の皆さま、おめでとうございます。

緑樹会では毎年、受験生を応援する活動を行っています。石蔵礼一先生による国試のための画像診断セミナーの開催、合格祈願QUOカードを通じての激励や、合格者へはお祝のメッセージカードを送付しています。

QUOカードやメッセージカードは緑樹会オリジナルのものを制作しており今年もは笠間周平先生(H10年卒業)がデザイン制作しました。これらは緑樹会の重要な教育支援活動の一貫であり今後も継続していきます。(QUOカードは裏表紙でも紹介しています。)

卒業生記念植樹

2022年3月3日、「2021年度 兵庫医科大学 学位授与式(第45回卒業式)」が行われ108名の卒業生が無事卒業の日を迎えました。卒業式後には恒例の記念植樹を行いました。この記念植樹は、第11期生から始まった伝統の行事です。卒業年に植樹された桜の木々が母校の周囲の景観を彩っていますので、訪れた際にはぜひ、桜の木の成長を見に立ち寄ってみてください。



31pの記事もあわせてご覧ください

兵庫医科大学の 50年

今号のテーマ▶ キャンパスを彩る花と緑 兵庫医科大学アーカイブズ室

兵庫医科大学開学50周年に向けて、これまでの大学の歴史を振り返る企画。四季折々に変化する豊かな緑は、心と身体を癒し、学生生活に潤いをもたらしてくれます。その木陰は夏の暑さを和らげ、花をきっかけに私たちのコミュニケーションを育みました。今回はアーカイブズ資料の中から、新入生を迎える満開の桜、学生が集う芝生などキャンパスを彩った花と緑について紹介します。



芝生

1980年(昭和55年)、空き地であり、駐車場化していた3号館前、5号館前を兵庫医科大学のキャンパス内の駐車禁止とし、芝を張って緑化を図りました。



卒業記念樹

昭和63年(第11期生)から卒業記念の植樹が始まり、5号館南側芝生広場と5号館北側の中庭に植樹されました。教育研究棟建設に伴う工事に先立ち、2014年(平成26年)に卒業記念樹の木々は平成記念会館周囲と小松南グラウンドに移植しました。7号館前の5本の桜(昭和63年(第11期生)~平成4年(第15期生)の卒業記念樹)については、樹木が大きく育っており、植え替えができなかったため、親株と同じDNAを持たせる「接ぎ木」で対応しています。



アオノリュウゼツラン (青の竜舌蘭)

このアオノリュウゼツランは兵庫医科大学の創設者森村茂樹先生のご自宅に植えられていたものです。1982年(昭和57年)頃に珍しい植物ということで森村先生のご自宅より5号館南側正門横に移植されました。2013年(平成25年)7月初旬には大きな蕾をつけ、40年から50年かけて1度だけ開花するといわれる花を7月下旬に咲かせました。



インドボダイジュ

ネパール・トリブバン大学との医学交流記念の木です。ネパール・トリブバン大学医学教育プロジェクトに兵庫医科大学は16年にわたり協力しました。この医学教育プロジェクトを記念して1981年(昭和56年)にネパール王国から約10本の苗木が贈られ、その1本が大きく成長しています。



卒業記念樹 樹木

- 第11期生 昭和63年 ソメイヨシノ
- 第12期生 平成元年 ソメイヨシノ
- 第13期生 平成2年 ソメイヨシノ
- 第14期生 平成3年 ソメイヨシノ
- 第15期生 平成4年 ソメイヨシノ
- 第16期生 平成5年 ソメイヨシノ
- 第17期生 平成6年 サンシュ
- 第18期生 平成7年 サンシュ
- 第19期生 平成8年 ウメ
- 第21期生 平成10年 ソメイヨシノ
- 第22期生 平成11年 ソメイヨシノ
- 第23期生 平成12年 ソメイヨシノ
- 第24期生 平成13年 ソメイヨシノ
- 第25期生 平成14年 ソメイヨシノ
- 第26期生 平成15年 ソメイヨシノ
- 第27期生 平成16年 ソメイヨシノ
- 第28期生 平成17年 ソメイヨシノ
- 第29期生 平成18年 ソメイヨシノ
- 第30期生 平成19年 ソメイヨシノ
- 第31期生 平成20年 ソメイヨシノ
- 第32期生 平成21年 ソメイヨシノ
- 第33期生 平成22年 ソメイヨシノ
- 第34期生 平成23年 ソメイヨシノ
- 第35期生 平成24年 ソメイヨシノ
- 第36期生 平成25年 ソメイヨシノ
- 第37期生 平成26年 ソメイヨシノ
- 第38期生 平成27年 ソメイヨシノ
- 第39期生 平成28年 ソメイヨシノ
- 第40期生 平成29年 ソメイヨシノ
- 第41期生 平成30年 ソメイヨシノ
- 第42期生 平成31年 ソメイヨシノ
- 第43期生 令和2年 ソメイヨシノ
- 第44期生 令和3年 ソメイヨシノ
- ※第20期生 平成9年 植樹なし(柱時計)

◆参考:兵庫医科大学広報(発行 学校法人兵庫医科大学事務局総務部)昭和55年8月22日 第46号、学校法人兵庫医科大学広報(発行 学校法人兵庫医科大学総務企画部広報課)2013年8月25日VOL.222、2014年4月25日VOL.225、兵庫医科大学開学25周年記念誌(発行 学校法人兵庫医科大学)平成9年11月、兵庫医科大学40年史(発行 学校法人兵庫医科大学)2012年11月22日



1 お店の名前を冠した定番・リスボンランチ (850円)
 2 カレーの香ばしい匂いが食欲をそそるドライカレーセット (900円)
 3 店内には昔ながらの懐かしさが漂う
 4 店主の吉田進さん。手さばきについ見とれてしまう

兵 庫医科大学病院PETセンターのすぐ隣、常に学生や病院関係者たちでにぎわう「ティールーム リスボン」。

ボリューム満点の定食メニューから、サンドイッチなどの軽食、サッとかき込めるカレーやピラフに加えて、ドリンクやデザートも充実している。ご飯の大盛りやお代わりが無料というのも、食べ盛りの学生にとっては嬉しいところだ。

昭和60年(1985)の開店当初から腕を振るう吉田進さんの一番のこだわりは「スピード」。忙しい医学生たちがサッと食べられるようにとの配慮で、とにかく手際がいい。奥様の京さんとの連携プレーもお見事で、最も忙しいランチタイムには息子さんも加わり、家族3人で店を切り盛りしている。

学生時代から長年通う常連客も多いとのこと、「先生になっ

た方が『私が定年退職するまでは開けといてや』と声をかけてくれたりするの嬉しいですね」と吉田さん。「定期試験や国家試験の前は、縁起を担いでカツ丼やから揚げを頼む学生さんが増えるんですよ」といったエピソードも微笑ましい。ただし、最近の学生は健康志向なのか、「ご飯を少なめに」というオーダーも増えてきたそう。「これも時代の流れですかね」と、長年学生たちを見守り続けてきたお店ならではの一言も。

「店ができた頃はまだ建物も少なく、空き地で息子とキャッチボールしていたくらいなのですが(笑)、いつの間にか建物も人もどんどん増えましたね」と、大学の発展に目を細める吉田さん。変わり続ける時代の中で、古き良き喫茶店のたたずまいを残す「リスボン」の存在は、誰もが安心してホッと一息つける場所なのだろう。

私の思い出



富田 寿彦 (平成9年卒)
 兵庫医科大学 内視鏡センター長
 健康医療学(消化器内科学)准教授

本学の卒業生なら誰もがご存じの名店。小生のお気に入りには唐揚げ定食で、学生時代から30年近くお世話になっています。

お店の方より



今まで店を続けてこられたのは兵庫医科大学のおかげ。本当に感謝しています。卒業後も通ってくださる方や「久しぶりに大学に来たから」と立ち寄ってくれる方もいます。またいつでも気軽に遊びに来てください。



ティールーム リスボン

◆ 兵庫県西宮市池開町3-10
 ☎ 0798-46-7940
 ◎ 7:00~20:00 (土曜・祝日~15:00)
 ☹ 日曜定休
 🚶 兵庫医科大学より徒歩約3分



緑樹会からのお知らせ

掲示板

◎ 第5回緑樹会学術奨励賞募集

本賞は、兵庫医科大学緑樹会会員の学術奨励を目的として授与するものです。

自薦他薦は問いません。ご応募をお待ちしています。

1 応募資格 応募時満50歳以下の緑樹会会員。緑樹会年会費を直近5年分完納していること

2 応募書類 ①略歴および業績録

②応募論文(英文原著1編、応募締め切り日から5年以内に受理されたもの)

③論文概要および意義を含む書類

3 応募期間 2022年4月1日(金)~5月15日(日)

4 選考 緑樹会会長および、会長が指名した緑樹会理事が選考委員として選考を行う

5 受賞 2名以内。選考委員会で選考後、緑樹会理事会で決定され、緑樹会総会で賞状および賞金5万円を授与(緑樹会総会開催日に授与式を行い同日に受賞記念講演をお願いすることがあります)

《応募書類送付先》緑樹会事務局 E-mail: ryokuju@hyo-med.ac.jp

事務局より

1 議事録

定期理事会議事録は緑樹会ホームページに公開しています。

詳細はこちらから
 ご覧ください



◆ URL

<https://www.hyo-med.ac.jp/department/ryokujukai/>

2 会費納入のお願い

会費は年額1万円です。同窓会は皆さまの会費をもとに維持運営されています。ご理解とご協力をお願いいたします。会費納入状況を確認したい場合は、事務局までお問い合わせください。

◆ 会費口座自動振替のご案内

会費のお支払いには便利な口座自動振替のご利用をお勧めしています。ご希望の方は会報に同封の申込書でお手続きをお願いします。

3 教育研究棟入構許可証(IC名札)の発行について

緑樹会会員のみなさまを対象に、教育研究棟入構許可証(IC名札)の申し込みを受け付けます。希望の方は申込書に顔写真(6ヶ月以内に撮影のもの)を添えて緑樹会事務局に申し込んでください。

4 住所、勤務先等変更届提出のお願い

現住所、勤務先等の変更がありましたらお早めに変更の手続きをお願いいたします。

詳細はこちらから
 ご覧ください



◆ URL

https://www.hyo-med.ac.jp/department/ryokujukai/ido_form/

5 現況

緑樹会会員数 4,491名(正会員・準会員含む) 2022年4月1日現在

編集長
 コラム

橋本 昌樹 (平成17年卒業)
 緑樹会常任理事

先般の会員アンケートにおいて多くの方々に会報誌についてご評価いただきありがとうございます。

開学50周年に向けて会報誌の体裁変更やいろいろな特集・企画記事の掲載などを行ってまいりました。これらの特集記事は、兵庫医大の過去、現在、未来のいずれかがテーマとなるように企画しており、広報誌を通じて同窓生の皆様が、「母校の昔を懐かしみ、現在を知り、そして未来に思いを馳せる」、そのように感じていただけたのであれば、望外の喜びでございます。

編集後記

笠間 周平 (平成10年卒業)
 緑樹会理事

2月には本学でもCOVID-19が問題となりましたが、その中で無事発刊でき安堵しております。私は関与したのは国試合格祈念QUOカードくらいですが、学生時代以来久しぶりにイラストを描きました。液タブでのデジタル作業は、ペンとトーンに比べ格段に早く作成できましたが、折しもデザイン業界では無断模倣が問題となっており、COVID-19とはまた別の窮屈な時代を実感しました。なおイラストは完全にオリジナルですので、緑樹会が炎上することはありません。今後ともオリジナリティのある誌面作りに努めたいと思います。

緑樹会支部
 はこちらから
 ご覧ください



Eisai *hvc*
human health care

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

ヒューマン・ヘルスケア企業
エーザイ

**Better Health,
Brighter Future**

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

Takeda

より良い明日へ

患者さんとそのご家族の「満たされたい願い」に応えるため、
革新的な新薬をいち早くお届けすることが私たちの使命です。
医薬品の開発を通して人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Science for a better life

BAIER

ENSEAL[®] XI
Curved Jaw Tissue Sealer

Capability of Kelly forceps

ETHICON

Guerbet

Magnescape[®]
meglumine gadoterate

環状型MRI用造影剤
マグネスコープ[®] 静注38%シリンジ

Magnescape[®] iv inj. 38% Syringe 10mL, 11mL, 13mL, 15mL, 20mL
ガドレル酸メグルミン注射液

製薬販売元 **ゲルベ・ジャパン株式会社** 東京都千代田区麹町6丁目4番6号 <http://www.guerbet.co.jp/>

SURGICEL[®] Powder
Absorbable Hemostat

術中の出血に効果を発揮

ETHICON

三井住友信託銀行グループ 想いまで託される仕事を。

**不動産に関することで
お役に立てることはございませんか？**

三井住友トラスト不動産株式会社は
「兵庫医科大学同窓会 **緑樹会**」の提携会社でございます。

提携割引特典

不動産売買が
成立した場合
仲介手数料
20%OFF

※提携割引の適用は「売買契約締結まで」のお申出が条件となります。※他の割引特典と、重ねてのご利用はできませんのであらかじめご了承ください。

サービスのご提供内容

<p>自宅売却・相続・ 遺産分割等 不動産の無料査定</p> <p>※不動産価格査定は不動産の鑑定評価に 関する法律に基づく不動産鑑定 評価に代わるものではありません。</p>	<p>不動産の 売却・購入の お手伝い</p> <p>※土地・戸建て・マンション・収益不動産など</p>	<p>不動産に関する 様々な資料の提供</p> <p>※仲介物件情報の他、当社作成による小冊子 「住まいの知識」「住まいの税金」等、 様々な資料をご提供いたします。</p>
---	---	---

不動産に関するあらゆるご相談は三井住友トラスト不動産(株)へ
お気軽にお問い合わせください。

■お問い合わせ先

三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト不動産株式会社

近畿圏情報営業部

TEL 0120-700-991

E-mail kinki-joei@smtrc.jp

日曜・祝日定休 営業時間/9:30am~5:30pm
TEL 06-6228-7010 FAX 06-6228-7030 <https://smtrc.jp/>
〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友ビル9階

取引態様/仲介
担当
小林
こばやし

国土交通大臣免許(9)第3397号・(一社)不動産協会会員・(一社)不動産流通経営協会会員・(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

※当社の業務のご紹介、不動産に関する情報・サービスのご提供のためにご案内させていただきました。※ご提供いただいた個人情報は、不動産に関するご相談、各種ご提案等に
利用いたします。なお、当社の「個人情報の保護方針」については、<https://smtrc.jp/>をご参照ください。※遠隔地の不動産やご相談内容によりましては、お取扱いできない場合が
ございます。あらかじめご了承ください。※取引態様/仲介(ご成約の際には仲介手数料(税込)を申し受けます)



医師国家試験合格祈念QUOカード

第116回医師国家試験合格を祈念して
受験生へQUOカードを進呈しました。

デザイン制作:笠間周平(平成10年卒業)



一般社団法人 兵庫医科大学同窓会

緑樹会会報 No.80

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

TEL:0798-45-6448 FAX:0798-45-6449 MAIL:ryokuju@hyo-med.ac.jp

発行日/2022年4月1日 発行/兵庫医科大学同窓会 緑樹会 発行人/石蔵 礼一